

## 2021 年度 3 回臨時幹事会 資料

開催日時:2021 年 9 月23日 19 時～

開催場所:オンライン(zoom を利用)

### 議題

1. 選手権のみの開催について
2. 開催判断基準の見直し
3. インカレ SPU 構想について
4. ICMR2021 の枠計算について

### 資料

1-1. ロング選手権のみの縮小開催について .....	2
1-2. 会計報告 .....	4
1-3. 2020 年度総会会計報告書・2020 中間報告 .....	5
1-4. 2020 年度日本学連販売地図売上報告 .....	7
1-5. 2021 年度予算案 .....	18
1-6. ICSL2021 予算案(学連共有用) .....	19
1-7. 比較対象用/2019 年度学連地図会計報告 .....	20
1-8. 新機軸 10 小山帰申請 .....	40
2-1. インカレ開催基準の見直しについて .....	42
2-2. 意見書_筑波大学 .....	43
3-1. インカレ SPU 構想について .....	45
3-2. 中長期的な ICS のあり方に関する検討 .....	46
3-3-1. ICS スキーム見直し .....	54
3-3-2. インカレ SPU の設置 .....	58
3-3-3. 日本学生オリエンテーリング連盟規約改正案 .....	59
3-3-4. インカレ SPU に関する細則(案) .....	70
3-3-5. terrain-control .....	73
4-1. インカレ枠振り計算方法の決定 .....	76
4-2. ICM2021 の競技者配分計算方法について .....	78

## ロング選手権のみの縮小開催について

第3回臨時幹事会参考資料

作成：幹事長若月俊宏

### 1. 概要

ICSL2021について、感染状況によっては通常の開催形態を断念し「ロング選手権のみの縮小開催」が選択肢として残される可能性がある。

近年、インカレは選手権の部のみの開催となった例はないため、本幹事会において「場合によっては『ロング選手権のみの縮小開催』を目指すのか」について様々な観点から議論をし、幹事会としての方針を決定、論点を整理した上で総会議案として提出したい。

### 2. 議論

論点は大きく以下の2点と考える。その他にも考慮すべき点があれば追加していきたい。

①「選手権のみの開催」でもインカレの意義は保たれるのか

②最大200万円の赤字を背負う価値・会計体力・カバーする施策はあるのか

①「選手権のみの縮小開催」でもインカレの意義は保たれるのか

インカレが学生にとって（また、運営者・オリエンテーリング業界にとって）どのような場であるのか。そして、「選手権のみの縮小開催」とした場合でも、その我々にとっての「インカレ」が保たれるのかどうか。

②最大200万円の赤字を背負う価値・会計体力・カバーする施策はあるのか

最大200万円の赤字を背負うのであれば、その投資価値・学連の会計状況・カバーする施策を提示・説明する必要がある。ここが成り立たないということであれば、①の議論によらず「選手権のみの縮小開催」は断念せざるを得ないという判断になるだろう。

### 3. 参考情報

○選手権のみの開催時の大会会計

[ICSL2021予算案\\_学連共有用\\_210915](#)

○スポーツ庁の支援

- ・中止時には必要経費の補償金を出してもらえらる事業に申請中
- ・縮小開催時にどうなるかは問い合わせ中（期待△、どちらのケースについても要検討）

○

### 4. 今後の手続き

本幹事会で①②の観点から方針を決定&必要に応じて追加の議論を行う

→決めた方針について後日改めてGoogleFormなどを用いて幹事承認をとる

→承認事項に基づき総会を招集、支出の承認を取る

議事録...

選手目線

◎学生日本一を決める唯一の大会

◎多くの学生ティアの目標となる、モチベーションを刺激する舞台

◎学生オリエンテーリング界の広がりを知ってもらう機会

オリエンテーリング界目線

◎運営ノウハウの蓄積・継承

## ○OBOGコミュニティの創出

### 前提

選手権のみの開催or中止

### 選手権のみの開催（疑問視）

近藤：「選手権出場者への憧れ」以上に「同年代や一般の部内でのライバル意識」が芽生える

羽田：選手権出場者を直近で見れる場所、選手権のみの開催という前例を作ってしまう

牧島：選手権の部が与える1,2年生に対する影響

### 選手権のみの開催（肯定派）

永山：「学生日本一を決める大会」は達成可能、観戦も可能、中止の場合はノウハウ継承も△

金澤：新入生に学生オリエンテーリング界の広がりを知ってもらおう←演出でカバー可能か

### 山川さん補足

選手権クラスだけの開催もインカレと呼べるか

ロングの選手権だけなら、ミニマル開催（会場使用もなし）が可能

### 会計状況を理解した上で

衣笠：200万円という数字、一人当たり2,000円の実質負担

永山：継続性の観点から、今年度限りの赤字も許容するべき。

浴本：インカレに関する寄付を集めることで赤字を軽減。

## 2019年度会計 決算報告

単位：¥




収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人	北東	2,000	502,000	
	関東	2,000	1,194,600	
	北信越	2,000	264,400	
	東海	2,000	352,000	
	関西	2,000	382,200	
	中九四	2,000	26,000	
合計			2,721,200	2,500,000
賛助金				
2019年度賛助金			106,000	100,000
事業収入				
2018年度ICMR貸付金			1,500,000	1,500,000
2018年度ICMR黒字返金			977,860	500,000
地図関係				
地図関係（例年7月ごろに確定）			2,939,750	
その他				
関東学連から家賃として			50,000	50,000
35周年記念式典関連経費			22,600	
利息			62	1,000
小計			8,317,472	4,651,000

※1 ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することになる。

※2 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

収支

8,317,472-6,798,921  
1,518,551

幹事長	会計監査	会計監査
		

## 2019年度日本学連会計 西平 崇

2020/12/14

単位：¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2019年度ICMR貸付金		1,500,000	1,500,000
部局活動費			
広報部		5,741	10,000
事業部		0	150,000
事務局		0	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部		24,550	100,000
技術委員会関係			
イベントアドバイザー派遣		0	100,000
学連合宿補助		31,302	
ユニバー補助（※1）	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費（※2）	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	824,048	1,300,000
	幹事会宿泊費	464,400	550,000
	会場使用料	20,700	50,000
	資料印刷代	0	500
事務局維持費			
事務局維持費	家賃	1,200,000	1,200,000
地図関係			
地図関係	新規地図事業第7弾	1,596,000	
	新規地図事業第8弾	680,000	
	熊ノ木修正調査	200,000	
その他			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	
アンチドーピング関係		1,768	30,000
UNIVAS関係		0	100,000
地区学連への賛助金フィードバック		16,000	25,000
ファミテックへのインカレ広告費		0	20,000
35周年記念式典関連経費（交通費）		68,900	
学連ロゴデザイン謝礼金		50,000	
COTJ2019経費		1,165	
手数料		11,347	5,000
小計		6,798,921	5,803,500

## 2020年度会計 中間報告

単位：¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人	北東	2,000	334,000	
	関東	2,000	706,000	
	北信越	2,000	186,000	
	東海	2,000	248,000	
	関西	2,000	284,000	
	中九四	2,000	12,000	
	合計		1,770,000	2,500,000
賛助金				
2020年度賛助金			531,000	100,000
事業収入				
2019年度ICMR貸付金			1,500,000	1,500,000
2019年度ICMR返金			393,104	500,000
2020年度ICS返金			137,500	
地図関係				
地図関係			0	※※
その他				
関東学連から家賃として			0	50,000
利息			31	1,000
	小計		3,938,531	4,651,000

※1 ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することになる。

※2 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

幹事長	会計監査	会計監査

## 2020年度日本学連会計 西平 楽

2021/3/14

単位：¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2020年度ICL貸付金		4,000,000	
2020年度ICS関連		700,000	
2020年度ICMR貸付金		1,500,000	1,500,000
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		0	150,000
事務局		0	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部		14,300	100,000
技術委員会関係			
イベントアドバイザー派遣		0	50,000
学連合宿補助		0	200,000
WUOC補助（※1）	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費（※2）	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	693,527	1,000,000
	幹事会宿泊費	291,115	550,000
	幹事会会場使用料	5,600	50,000
	資料印刷代	0	500
事務局維持費			
事務局維持費	家賃	1,200,000	1,200,000
地図関係			
地図関係	地図修正	300,000	※※
その他			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	3,000
アンチドーピング関係		0	30,000
UNIVAS関係		0	100,000
地区学連への賛助金フィードバック		0	25,000
ファミテックへのインカレ広告費		0	20,000
インストラクタ講習会		0	550,000
日学Tours2020		20,500	80,000
手数料		17,472	5,000
	小計	8,845,514	6,283,500

2020年度会計 中間報告

単位：¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人	北東	2,000		308,000
	関東	2,000		706,000
	北信越	2,000		186,000
	東海	2,000		248,000
	関西	2,000		238,000
	中九四	2,000		12,000
	合計		1,698,000	2,500,000
賛助金				
2020年度賛助金			77,000	100,000
事業収入				
2019年度ICMR貸付金			0	1,500,000
2019年度ICMR黒字返金			0	500,000
地図関係				
地図関係			0	※※
その他				
関東学連から家賃として			0	50,000
利息			4	1,000
	小計		1,775,004	4,651,000

※1 ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することになる。

※2 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

幹事長	会計監査	会計監査

2020年度日本学連会計 西平楽

2020/10/17

単位：¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2020年度ICL貸付金		4,000,000	
2020年度ICMR貸付金		0	1,500,000
部局活動費			
広報部		0	10,000
事業部		0	150,000
事務局		0	50,000
普及部		0	10,000
理事会		0	100,000
渉外部		1,170	100,000
技術委員会関係			
イベントアドバイザー派遣		0	50,000
学連合宿補助		0	200,000
WUOC補助(※1)	オフィシャル補助など	0	150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費(※2)	0	250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費	387,680	1,000,000
	幹事会宿泊費	148,500	550,000
	幹事会会場使用料	5,600	50,000
	資料印刷代	0	500
事務局維持費			
事務局維持費	家賃	0	1,200,000
地図関係			
地図関係		0	※※
その他			
JOA関係	年会費	100,000	100,000
	保険金	3,000	3,000
アンチドーピング関係		0	30,000
UNIVAS関係		0	100,000
地区学連への賛助金フィードバック		0	25,000
ファミテックへのインカレ広告費		0	20,000
インストラクタ講習会		0	550,000
日学Tours2020		20,500	80,000
手数料		4,412	5,000
	小計	4,670,862	6,283,500

## 2020年度日本学連販売地図売上報告 (本来なら2021年度最初の総会報告義務事項、2021.9.1)

### 認識論:

日本学連の収入面大きな3面(加盟費・事業収入・版權所有地図売上)の3番目の項目と管理業務には契約を取りかわし、会計監査による精査によって総会に報告される(総会報告→年度最終総会でかなり正確度の高い見込報告を提出し、次年度最初の総会で正式報告)

### 反省点

担当が学連の屋台骨渉外も兼ねているため、この常時激動するコロナ渉外の対応優先、不便がないように提供し(加えて自粛警察等の渉外問題などもおこさないようトレーニング)なかなか、あと報告義務までの作業時間が取れず、遅れ遅れになる。日本学連の大きな会計の議論になると、ここの数字が正確に出ていないと、議論の妨げになる。

### 改善提案

佐藤遼平氏が会計監査の時に日々請求を会計と監査に同報してほしいと受けたが、その直近の請求からそれを改めた。またこういう集計業務を業者側でなく、会計と監査側で担

### 総会での扱いと幹事会議案

今回は臨時総会の当日となってしまったが、2020年度の最終報告と2021年度の間接報告の扱いは次回臨時幹事会の審議事項とする。

正式に報告を総会で受けたとすることは今回でも次回臨時総会扱いでも可能(秋インカレ)そこには正確な会計資料が議論に要する部分があり、総会当日ではあるが資料を提示しちなみに本報告の2月中旬までの中間報告はzoom幹事会にて報告済みであり、そこで一音

### 内容説明

提出した数字が示す通り(それは2月幹事会でも報告した通り)コロナ前の地図売上の半自助努力によって学連地図でイベントを開催したことによる成果で、純粋に加盟校の練習そのため2020年度はインカレ大会・中止にともなう支出もあり、安定して稼げる筈の地図未だコロナの変異株の流行によって、芳しい売上とはなっていない。山川Dream・サマーチ

### 地図支出に関する3パターン

- 1 通常地図売上の中での練習会やイベント(各校練習会や山川Dream等もこれ)
- 2 東工大パターン、次は「矢板山田」リメイクで申請、母体は一加盟校ではなく学連(セレで)
- 3 KOLC・名相大会パターン  
→これによって2020年度もDreamリレーは学連地図売上に計上していない

### 悩める各校

学連所有の地図活用術は昨年までの幹事会議論を通して、大きく分けて3通りのパターン: 1つは、最近では茨城大(高塩)・東工大(塩谷クラシック)のように業者が提案した新規増2つ目が改変の必要性のあるテレインを一時借用して、クラブで地図調査から行って大会3つ目がプロの渉外や地図調査・コースセット・大会運営の指南を受けながらクラブ全体で結局そのどれもがコロナのおかげで大学の名を冠することなく終わっている。特に今名大これ以上大会ができないと、代々相伝してきたものが途絶えてクラブの存続すら脅かすも私も学連地図管理者、YMOE経営者としてこれを何とか打開する方法を毎日必死で模索

	学連への地図売上報告		コメント
2009年度			
2010年度	ここ極めて不明瞭		ここまでGM社
2011年度			この年度からYMOE社
2012年度	ここまで手元では資料発見できず、学連地図売上がここから加速		
2013年度	¥ 2,575,800	①早大②千葉大・東工大	新規地図作成事業開始
2014年度	¥ 1,639,500	③筑波大	
2015年度	¥ 2,600,600	④KOLC	ヤマカワハウス開設
2016年度	¥ 1,708,850		
2017年度	¥ 2,184,000	⑤東工大(実現は2018年度)	
2018年度	¥ 2,796,600	⑥茨城大、インクトラクタ講習会開始	

2019年度	¥	2,939,750	⑦農工大⑧日光北範囲穴埋拡大	春インカレ中止があっても2月までの練習で最大値！
2020年度	¥	1,467,400	⑩東工大(実現は2021年度) 宙浮き⑨茨城大 今年度申請⑪矢板山田 その他パターン:KOLC、名大(2020年度決議)	

2月幹事会で中間報告、そこで受けた質問を修正して反映(桜の湖部分)  
 年度末までの実績値を追加して反映→監査送りはこれから  
 3月29日に地図売上金100万円を先行前倒しで納金済

実施日	テレイン名	団体名	YMOE伝票番号(整理都合)
3月22日	塩谷田所	山川Dream#6	
6月6日7日	日光愛宕山	山川Dream#7	
6月14日	塩谷田所	山川Dream#8	
6月28日	日光愛宕山	山川Dream#9	
8月8日10日	日光和泉	山川Dream#10	
8月30日	日光和泉	山川Dream#11	
9月1日	毘沙門山	山川Dream#12	
12月20日	築目川源流	山川Dream#13	
12月27日	矢板山苗代	山川Dream#14	
2月20日	日光高畑	山川Dream#15pre小牧	
2月27日	日光高畑	山川Dream#15pre元春	栃木2021-2
3月9日	日光高畑	山川Dream#15	
3月13日	倉掛湧水池	山川Dream#16(記念大会)	
3月28日	矢板幸岡	山川Dream#17	
6月27日	不動の滝(南)	日光ロング	
6月27日	毘沙門山	日光ロング	
11月15日	※インカレロング再送はインカレロング実行委員会会計		
7月23日	倉掛湧水池	しおや4Days	
7月24日	塩谷田所	しおや5Days	
7月24日	塩谷熊ノ木night	しおや6Days	
7月25日	塩谷熊ノ木day1	しおや7Days	
7月25日	塩谷熊ノ木day2	しおや8Days	
7月25日	塩谷熊ノ木MTBO	しおや9Days	
大会～年間 巨大マップ(109枚、2180カウント)			
9月24日	桜の湖	東海学連	YMOE2020-12
2月24日	桜の湖	関西有志	YMOE2020-14
8月16日	北東インカレ試走	日光霧降	栃木2020-25
		不動の滝(北)	
8月16日	KOLC	日光和泉	栃木2020-26
8月29日	関東OS会	日光和泉	栃木2020-27
9月6日	東京大学	日光例幣使街道	栃木2020-28
9月5日	東大OLK	毘沙門山	栃木2020-29
9月24日	関東学連	日光所野	栃木2020-30
9月15日	新潟大学	日光例幣使街道	栃木2020-31
	新潟大学	日光和泉	
	新潟大学	不動の滝(南)	
10月2日	筑波大	不動の滝(南)	栃木2020-32
10月1日	早稲田大	日光例幣使街道	栃木2020-33
10月6日	東京工業大学	不動の滝(南)	栃木2020-34
10月6日	千葉大学	日光和泉	栃木2020-35
11月26日	東京工業大学	日光例幣使街道	栃木2020-36
12月9日	入間市OLC	日光所野	栃木2020-37
12月9日	KOLC	矢板山苗代	栃木2020-38
12月9日	東大OLK	矢板山苗代	栃木2020-39
12月9日	千葉大学	塩谷熊ノ木	栃木2020-40

12月9日	東京工業大学	塩谷熊ノ木	栃木2020-41
12月9日	筑波大学	矢板山苗代	栃木2020-42
12月10日	東大OLK	塩谷熊ノ木	栃木2020-43
12月30日	関東・北東セレ	築目川源流	栃木2020-44
12月27日	東北大学	矢板山苗代	栃木2020-45
12月29日	トータスジュニアキャンプ	日光和泉	栃木2020-46
	トータスジュニアキャンプ	不動の滝	
	トータスジュニアキャンプ	日光高畑	
	トータスジュニアキャンプ	毘沙門山	
2月21日	新潟大学	日光所野	栃木2021-1
3月11日	筑波大学	日光所野	栃木2021-3
3月14日	新潟大学	日光高畑	栃木2021-4

【初出企画使用分】

2020年度は無し、決議は⑨茨城大⑩東工大がある

## 2021年度分中間報告(2021.9.14) <地図著作権代は総会決議を経てコロナ対策で1

実施日	テレイン名	団体名	YMOE伝票番号(整理都合)
4月6日	茨城大学	日光和泉	栃木2021-5
4月8日	東京工業大学	日光例幣使街道	栃木2021-6
4月17日	ドリーム18本イベント	築目川源流	
4月24日	茨城大学新歓	日光和泉	栃木2021-7
4月24日	早稲田大学新歓	日光例幣使街道	栃木2021-8
5月2日	山リハ2021	築目川源流(新規分)	単価550円
		築目川源流(ノーマル販売分)	単価250円
5月3日	カタルシスDay3	日光所野	
5月1日	JOA合宿	塩谷熊ノ木	
5月2日	JOA合宿	築目川源流	
5月3日	JOA合宿	日光所野	
5月9日	東京大学新歓	日光例幣使街道	栃木2021-9
5月10日	千葉大学新歓	日光例幣使街道	栃木2021-10
5月16日	新潟大学新歓	日光例幣使街道	栃木2021-11
5月16日	早稲田大学新歓	日光高畑	栃木2021-12
5月22日	筑波大学	日光例幣使街道	栃木2021-13
5月26日	筑波大学	日光口	栃木2021-14
		日光和泉	
6月5日	KOLC	日光所野	栃木2021-15
6月19日	千葉大学	日光高畑	栃木2021-16
		不動の滝	
6月20日	新潟大OB	日光例幣使街道	栃木2021-17
7月8日	関東ロングセレ	霧降+不動北	栃木2021-18
		不動北	
7月10日	東京大学	毘沙門山	栃木2021-19
7月11日	塩谷classic	小山帰(新規)	栃木2021-20
		小山帰(それ以外)	
		塩谷熊ノ木	
7月17日	ドリーム19本イベント	日光高畑	
7月29日	ファミテック2Days&Dream20	日光例幣使街道	栃木2021-21
7月31日	関東OS定例会	日光和泉	栃木2021-22
7月31日	東大OLK夏場所	日光和泉	栃木2021-23
7月31日	ドリーム21本イベント	日光和泉	
8月8日	東京大学	日光所野	栃木2021-24
8月25日	NPO法人トータス	日光高畑	栃木2021-25
		日光和泉	
8月25日	新潟大学	日光和泉	栃木2021-26
8月25日	KOLC	日光和泉	栃木2021-27
9月12日	東京大学	倉掛湧水池	栃木2021-28
9月23日	ドリーム19-2	日光高畑	
10月2日	サマチャレ日光	日光高畑	

6月	WOC特訓	望郷の森	
8月	JWOC特訓	望郷の森	

現状の2021年度地図売上	250円もの	3313
<コロナ対策会計議論の参考に>	550円もの	608
	ポスター(2500円)	3
	2021年度現状売上	
	単純に言って単価50円上げたことによって現状16万2150円の	
	10月以降のコロナ対策にもよるが、ミドルセレも単価550円もの	
	練習できるようになれば、地図会計は早晩に回復すると思わ	

して主要部分を成す  
報告義務)  
式報告される(3月末まで地図売上はあるため)

となり、地図販売は相手に対する  
グ内容を監修し)、までが精一杯で  
に会計の柱だけに

れも実現できていないので  
!当するのもありかと現幹事長から提案を受けた

告を記し、生ファイルを上記役職者とも学連のドライブで共有する

ノ開催の為にはもう一回臨時総会が必要なことが想定されるため)  
しました・・・が今回の経緯である  
邦不備が指摘されて修正し、3月末までの分を確定させたものである

分程度となっている。しかもさらにそのうちの半分は山川・坂野が  
引による地図売上収入は約4分の1に減っている  
代金を50円値上げする総会決議を採って今年度対応しているか  
ャレンジ等の管理者自助努力による売上部分が大きい

使用)

ンがあることを説明した。  
地図作成事業に乗る形  
を企画運営する形(KOLC、名大)  
で伸長を期する形(新茨城大)  
こと茨城大から受けている相談は  
ものに現状なっている。  
中である(総会でのコメントはここまで)

IC開催地	
前高原・日光例幣使街道	2328枚
奈良嶽山・桜の湖	2767枚
松本アルプス高原・希望が丘	3542枚
足柄→富士こどもの国・日光所野	8521枚
富士奇石・矢板日新	11794枚
福井・作手高原	7986枚
長野富士見・塩谷熊ノ木	12626枚
天平・矢板前高原・マキノ	9759枚
上石津時・関ヶ原・不動の滝・日光高畑	12405枚
駒ヶ根・望郷の森	13221枚

中津川・矢板(春インカレ中止)	13623枚
栃木県民の森・那須野が原公園(無観客)・青山(中止)	7337枚
前年比収入で¥1,472,350減、枚数で46.1%減	

枚数	特記事項	備考2
150		
78		
34		
62		
124		
83		
35		
127		
152		
51		
22		
54		
189		
115		
82		
82		1440
	山川で1440、坂野で2838	
140	二人で4278枚売上相当になる	
133		
36		
158		
141		
50		2838
2180	巨大マップは10枚分の版權料	4278
118		
175		
7	北東インカレは中止	
15		
43		
42		
128		
20		
270		
54		
80		
37		
72		
41		
42		
29		
25		
209		
115		
147		
46		

117		
71		
48		
496		
120		
115		
60		
57		
125		
65		
35		
35		
7337	¥	1,467,400

<3/29に百万円納金済>

年間暫定で250円に値上げしている>

枚数	特記事項	備考2
33		
23		
82		
86		
63		
238		
20		
147		
30		
40		
20		
68		
75		
78		
36		
84		
66		
128		
42		
227		
111		
15		
194		
239		
40		
370		
282		
50		
47		
171		
103		
42		
109		
81		
108		
114		
42		
69		
78	未払	
	これから	
	これから	

10	YMOEから選手に寄付	
60	YMOEから選手に寄付	

	828250
	334400
	7500
	<hr/>
	1170150
<p>の地図売上増収          りが続くので、また元のように頻繁に          れる。少なくとも2020年度よりは多いだろう</p>	

2021.09.14 YMOE社  
山川克則



¥31200入っている

2021年度会計 予算案

単位：¥

収入項目	単価	数量	金額	予算
加盟金				
個人	北東	2,000		
	関東	2,000		
	北信越	2,000		
	東海	2,000		
	関西	2,000		
	中九四	2,000		
	合計			2,500,000
賛助金				
2021年度賛助金				100,000
事業収入				
2020年度ICMR貸付金				1,500,000
2020年度ICMR黒字返金				500,000
地図関係				
地図関係				※※
その他				
関東学連から家賃として				50,000
利息				1,000
	小計			4,651,000

※1 ユニバーは2年に1度であり、2年に1度まとめて30万円を支出するが、計算上は1年に15万円を予算として計上することになる。

※2 活動報告書作成費は毎年25万円を予算として計上。ただし発行は2年に1度なので、2年に1度50万円を支出している。

幹事長	会計監査	会計監査

2020年度日本学連会計 西平 楽

2021/3/14

単位：¥

支出項目	詳細	金額	予算
インカレ関係			
2020年度ICMR貸付金			1,500,000
部局活動費			
広報部			10,000
事業部			150,000
事務局			50,000
普及部			10,000
理事会			100,000
渉外部			100,000
技術委員会関係			
イベントアドバイザー派遣			50,000
学連合宿補助			200,000
WUOC補助（※1）	オフィシャル補助など		150,000
幹事会関係			
印刷費	活動報告書作成費（※2）		250,000
幹事役員活動費	幹事会交通費		1,000,000
	幹事会宿泊費		550,000
	幹事会会場使用料		50,000
	資料印刷代		500
事務局維持費			
事務局維持費	家賃		1,200,000
地図関係			
地図関係	地図修正		※※
その他			
JOA関係	年会費		100,000
	保険金		3,000
アンチドーピング関係			30,000
UNIVAS関係			100,000
地区学連への賛助金フィードバック			25,000
ファミテックへのインカレ広告費			20,000
インストラクタ講習会			550,000
手数料			10,000
	小計		6,208,500

収入				2021年度
No	分類	大項目	細目	単価
1	参加費	競技者参加費	スプリント選手権参加費	4,500
2	参加費		スプリント学生一般参加費	3,500
			スプリント学生新人参加費	2,000
3	参加費		スプリント併設大会参加費	
4	参加費		スプリント併設大会当日参加費	
5	参加費		スプリント前走参加費	
6	参加費		ロングモデルイベント参加費	
7	参加費		ロング選手権参加費	5,800
8	参加費		ロング学生一般参加費	4,800
			ロング学生新人参加費	2,700
9	参加費		ロング併設大会参加費	
10	参加費		ロング併設大会当日参加費	
11	参加費		ロング前走参加費	
12	参加費		オフィシャル参加費	3,000
13	参加費		アフターイベント参加費	
14	参加費		アフターイベント当日参加費	
15	参加費		SIレンタル	0
16	参加費		E-cardレンタル	300
17	広告収入	競技者その他	要項3広告費	400,000
18	雑収入		ドーピング検査関連費	0
19	雑収入		地図販売	40,000
20	参加者バス代		バス代徴収	
21	雑収入		弁当代	
22	雑収入		花束販売	
23	雑収入		報告書販売	
24	雑収入	対外その他	版權代	
25	雑収入		雑収入	
26	日本学連負担金	補助金	学連負担	
27	補助金		寄附金	300,000
28	雑収入	協賛金	協賛金	125,000
収入計				

支出				2021年度
No		大項目	細目	単価
1	地図作成費	地図作製費	NishiPRO外注費	0
2	地図作成費		YMOE外注費	2,000,000
3	地図印刷費	地図印刷代	スプリント地図印刷代	150
4	地図印刷費		ロング地図印刷代	150
5	地図印刷費		アフターイベント地図印刷代	0
6	地図印刷費		併設大会地図印刷代	0
7	地図印刷費		モデルイベント地図印刷代	0
8	地図印刷費		試走地図その他印刷代	0
9	交通宿泊費	交通/宿泊費	交通/宿泊費(会議等)	0
10	交通宿泊費		交通/宿泊費(第1回試走) 5/22	44,792
11	交通宿泊費		交通/宿泊費(第2回試走) 10/B ?	112,000
12	交通宿泊費		交通/宿泊費(3週間前準備) 10/E ?	112,000
13	交通宿泊費		交通/宿泊費(最終試走) 11/6,7 ?	112,000
14	交通宿泊費		交通/宿泊費(1週間前準備) 11/13,14	112,000

15	交通宿泊費		交通費(当日)	545,500
16	交通宿泊費		宿泊費(当日)	0
17	演出関係費	演出関係費	演出費	370,000
18	演出関係費		観戦ガイド印刷代	0
19	消耗品費	消耗品費	ゼッケン代	80
20	消耗品費		記念品費(メダル・レプリカ)	200,000
21	消耗品費		賞品費	0
22	消耗品費		消耗品費・資材リース費	150,000
23	計時システム借上	競技機材費用	SIカード/システムレンタル費	100,000
24	計時システム借上	費	EMITレンタル、mulka使用費	20,000
25	計時システム借上	費	Eカードレンタル費	250
26	計時システム借上	費	フラッグ、ラベルプリンタ等その他	0
27	計時システム借上	費	アングル買い替え	0
28	要項3印刷費	印刷費	要項3印刷費	0
29	要項3印刷費		報告書印刷費	0
30	その他経費	その他	看護師派遣費	0
31	その他経費		傷害保険加入費	24,200
32	その他経費		公認大会登録料一時登録費	0
33	その他経費		ペンション渉外	0
34	その他経費		施設利用料	39,600
35	その他経費		テレイン使用料	0
36	その他経費		ごみ処理費	0
37	その他経費		仮設トイレ手配費	0
38	その他経費		バス手配費	0
39	その他経費		弁当仕入れ	0
40	その他経費		花束仕入れ	
41	その他経費		通信費	20,000
42	その他経費		機材輸送費	0
43	その他経費		資材運用費用	0
44	役員運営費		外部人材人件費	0
45	役員運営費		演出システム開発費	0
46	役員運営費		昼食代補助	0
47	役員運営費		運営者日当	1,000
48	役員運営費		運営者当日食費・入浴費	0
49	役員運営費		責任者級手当	0
50	その他経費		運営者グッズ	0
51	その他経費		雑支出	30,000
支出計				

純利益			
-----	--	--	--

(案) @矢板		2021年度 (案) ロング選手戦のみ		
数量	金額	単価	数量	金額
94	423,000			0
220	770,000			0
90	180,000			0
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
94	545,200	5,800	94	545,200
220	1,056,000			0
90	243,000			0
	0			0
	0			0
	0			0
50	150,000	0	0	0
	0			0
	0			0
	0			0
124	37,200	300	20	6,000
1	400,000	400,000	1	400,000
	0			0
1	40,000	40,000	1	40,000
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
	0			0
1	300,000	300,000	1	300,000
1	125,000	125,000	1	125,000
	4,269,400			1,416,200

(案) @矢板		2021年度 (案) ロング選手戦のみ		
数量	金額	単価	数量	金額
0	0			
1	2,000,000	2,000,000	1	2,000,000
500	75,000			0
500	75,000	150	150	22,500
0	0			0
0	0			0
0	0			0
1	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	44,792	44,792	1	44,792
1	112,000	112,000	1	112,000
1	112,000	112,000	1	112,000
1	112,000	112,000	1	112,000
1	112,000	112,000	1	112,000

1	545,500	545,500	1	379,490
0	0			0
1	370,000	200,000	1	200,000
0	0	0	0	0
808	64,640	80	94	7,520
1	200,000	50,000	1	50,000
1	0	0	1	0
1	150,000	150,000	1	150,000
1	100,000			0
1	20,000	20,000	1	20,000
124	31,000	250	20	5,000
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
2	48,400	24,200	1	24,200
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	39,600	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
	0			0
1	20,000	20,000	1	20,000
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	1,000	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	30,000	30,000	1	30,000
	4,261,932			3,401,502
	7,468			-1,985,302

見積参考	2020年度@矢板	
	単価	数量
参加者合計：370人程度前提（去年の9割くらい）		
ない前提		
ない前提		
要検討		
ない前提		
	4,000	97
	3,000	301
	1,500	26
ない前提		
ない前提		
要検討		
過去実績参考 オフィシャル参加費徴収する？	2,000	77
ない前提	31,200	1
ない前提		
レンタル費用は参加費に含まれる		
一般参加者の4割、利益50円	300	88
過去実績参考	434,000	1
あってもJADA持ち	0	0
昨年度実績ベース	39,500	1
不使用予定？	0	0
基本的には支出で相殺予定	0	0
見送り	27,500	1
WEB公開のみ	0	0
なし	0	0
ー		
要調整	4,000,000	1
昨年度は、ロング54万 スプリント22万	538,000	1
日本旅行 25万円？ 要調整		

見積参考	2020年度@矢板	
※背景色付き = ほぼ確定	単価	数量
ー		
	2,600,000	1
過去実績参考 YMOE値下(コロナ協力) 検討		
過去実績参考 YMOE値下(コロナ協力) 検討	227,560	1
試走地図は地図制作費範囲内で実行委員会で刷らなきゃ計上の要なし	4,200	1
	9,576	1
これくらい？	47,560	1
「試走試算」シート参照	105,176	1
「試走試算」シート参照	63,106	1
「試走試算」シート参照	180,843	1
「試走試算」シート参照	49,950	1

「試走試算」シート参照、宿泊合算	359,062	1
山川ハウス+α?	141,200	1
暫定	430,166	1
演出費に含む	0	0
昨年度実績参考 単価80円	46,000	1
過去実績参考、ほぼ固定費 選手権のみだこのくらい?	202,103	1
過去実績参考	0	0
過去実績参考	105,103	1
オンラインコントロール	45,713	1
過去実績参考 ロング選手権20?	22,750	1
消耗品費・資材リース費に含む	0	0
消耗品費・資材リース費に含む	0	0
WEB公開のみ	0	0
WEB公開のみ	0	0
要検討	0	0
50円×人数(374+50+60)×2日間	28,500	1
公認大会にはしない	0	0
なし	0	0
キャンセル料?	200	1
なし	42,800	1
雑支出に含む	0	0
	290,400	1
不使用予定?	0	0
基本的には収入で相殺予定	44,140	1
見送り	28,000	1
郵送料、wifiルーターレンタル等	3,515	1
通信費に含む+	0	0
消耗品費・資材リース費に含む	0	0
	0	0
特に検討予定無し?	0	0
日当に含む	0	0
交通宿泊費に含む	1,083,000	1
日当に含む	0	0
要検討		
要検討	77,770	1
昨年度実績参考	24,705	1

--	--	--

	2019年度@中津川			2018年度@駒ヶ根			2017年度@関ヶ原			2016年度
金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
0	4,000	100	400,000	4,000	99	396,000	3,500	102	357,000	3,000
0	3,000	712	###	3,000	717	###	2,600	546	###	2,000
0	3,000	69	207,000	3,000	96	288,000	2,600	106	275,600	2,000
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	3,000	1	3,000	0	0	0	0	0	0	0
0	0		0	1,000	587	587,000	1,000	600	600,000	0
388,000	6,000	95	570,000	6,000	103	618,000	5,800	96	556,800	5,100
903,000	5,000	743	###	5,000	767	###	4,800	760	###	4,100
39,000										
0	4,000	113	452,000	4,000	156	624,000	3,200	176	563,200	2,500
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	4,000	2	8,000	4,000	3	12,000	0	0	0	0
154,000	6,000	58	348,000	5,000	55	275,000	4,600	44	202,400	4,600
31,200	1,000	20	20,000	1,000	77	77,000	0	0	0	0
0	1,500	7	10,500	17,800	1	17,800	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0	0	0	0	100
26,400	300	363	108,900	300	638	191,400	93,700	1	93,700	300
434,000	402,000	1	402,000	262,000	1	262,000	380,000	1	380,000	236,000
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
39,500	112,400	1	112,400	122,500	1	122,500	130,940	1	130,940	105,500
0	0		0	0	0	0	389,000	1	389,000	156,700
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
27,500	1,000	70	70,000	0	0	0	0	0	0	1,000
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	2,284	1	2,284	0	0	0	0	0	0	51,228
###	0		0	0	0	0	200,000	1	200,000	0
538,000	0	0	0	0	0	0	###	1	###	0
0	200,000	1	200,000	0	0	0	0	0	0	0
###			###			###			###	

	2019年度@中津川			2018年度@駒ヶ根			2017年度@関ヶ原			2016年度
金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
0	0		0	0	0	0	0	0	0	###
###	###	1	###	###	1	###	###	1	###	735,810
0	200	2,232	446,400	200	1,403	280,600	200	1,321	264,200	150
227,560	200	1,498	299,600	200	1,434	286,800	200	2,181	436,200	150
0	0		0	200	114	22,800	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	0		0	150	610	91,500	0	0	0	0
4,200	0	45	0	17,150	1	17,150	0	0	0	0
9,576	50,570	1	50,570	1,420	1	1,420	50,190	1	50,190	33,503
47,560	114,470	1	114,470	87,610	1	87,610	316,433	1	316,433	10,872
105,176	29,000	1	29,000	131,110	1	131,110	146,420	1	146,420	210,273
63,106	55,560	1	55,560	190,553	1	190,553	263,456	1	263,456	255,481
180,843	202,682	1	202,682	186,816	1	186,816	353,859	1	353,859	108,501
49,950	186,202	1	186,202	232,692	1	232,692	278,812	1	278,812	101,255

359,062	434,553	1	434,553	315,053	1	315,053	405,774	1	405,774	296,727
141,200	683,951	1	683,951	453,300	1	453,300	304,500	1	304,500	75,800
430,166	678,040	1	678,040	551,217	1	551,217	899,381	1	899,381	0
0	16,960	1	16,960	20,556	1	20,556	18,100	1	18,100	10,544
46,000	173,760	1	173,760	181,920	1	181,920	189,734	1	189,734	136,400
202,103	205,450	1	205,450	197,550	1	197,550	144,180	1	144,180	161,450
0	38,196	1	38,196	20,692	1	20,692	0	0	0	0
105,103	239,248	1	239,248	114,870	1	114,870	315,438	1	315,438	201,567
0	51,300	1	51,300	37,400	1	37,400	130,627	1	130,627	105,720
45,713	16,050	1	16,050	15,761	1	15,761	162,857	1	162,857	78,160
22,750	250	500	125,000	250	746	186,500	0	1	0	8,872
0	30,790	1	30,790	37,840	1	37,840	34,500	1	34,500	0
0	3,600	1	3,600	10,000	1	10,000	0	0	0	0
0	280,500	1	280,500	246,408	1	246,408	302,996	1	302,996	345,499
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	15,000	1	15,000	0	0	0	0	0	0	0
28,500	95,700	1	95,700	129,648	1	129,648	126,522	1	126,522	100,122
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
200	122,588	1	122,588	26,450	1	26,450	21,868	1	21,868	37,000
42,800	90,300	1	90,300	0	0	0	0	0	0	137,200
0	0		0	0	0	0	0	0	0	13,870
290,400	221,732	1	221,732	0	0	0	186,314	1	186,314	0
0	0		0	0	0	0	572,400	1	572,400	111,240
44,140	0		0	0	0	0	626,616	1	626,616	600
28,000	1,000	70	70,000	0	0	0	66,200	1	66,200	54,600
3,515	16,349	1	16,349	18,668	1	18,668	82,069	1	82,069	0
0	0		0	0	0	0	0	0	0	9,792
0	0		0	0	0	0	0	0	0	30,240
0	163,680	1	163,680	180,000	1	180,000	0	0	0	0
0	0		0	30,000	1	30,000	0	0	0	0
0	0		0	0	0	0	500	301	150,500	108,000
###	434,379	1	434,379	81,500	1	81,500	0	0	0	0
0	0		0	134,910	1	134,910	0	0	0	0
0	280,000	1	280,000	300,000	1	300,000	0	0	0	0
77,770	82,711	1	82,711	58,040	1	58,040	0	0	0	0
24,705	66,622	1	66,622	82,222	1	82,222	0	0	0	0
###			###			###			###	

317,502			48,811			###			0	
---------	--	--	--------	--	--	-----	--	--	---	--

④前高原		2015年度④富士見		
数量	金額	単価	数量	金額
96	288,000	3,000	88	264,000
357	714,000	2,000	319	638,000
55	110,000	0	0	0
0	0	0	25	0
0	0	0	0	0
0	0	1,000	836	836,000
93	474,300	4,500	107	481,500
737	###	3,500	753	###
85	212,500	2,474	153	378,500
0	0	2,000	25	50,000
0	0	0	0	0
41	188,600	4,000	62	248,000
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
490	49,000	100	1,691	169,100
245	73,500	0	0	0
1	236,000	318,000	1	318,000
0	0	10,600	1	10,600
1	105,500	135,900	1	135,900
1	156,700	0	0	0
0	0	800	1,238	990,400
24	24,000	300	60	18,000
0	0	400	44	17,600
0	0	443,000	1	443,000
1	51,228	24,866	1	24,866
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
	###			###

比較要素	
全般	会場
	宿泊
	資材置場
	宿泊斡旋
	モディベ
体制	運営主管
	渉外主体
計時	計時システム(スプリント)
	計時システム(ロング)
	地図作製(ロング)
地図	地図作製(スプリント)

④前高原		2015年度④富士見		
数量	金額	単価	数量	金額
1	###	###	1	###
1	735,810	0	0	0
861	129,150	150	721	108,150
1,305	195,750	150	2,194	329,100
0	0	0	0	0
0	0	150	372	55,800
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	33,503	40,129	1	40,129
1	10,872	405,927	1	405,927
1	210,273	215,351	1	215,351
1	255,481	338,667	1	338,667
1	108,501	188,666	1	188,666
1	101,255	74,841	1	74,841

1	296,727	301,173	1	301,173
1	75,800	507,191	1	507,191
1	0	50,396	1	50,396
1	10,544	9,936	1	9,936
1	136,400	102,751	1	102,751
1	161,450	138,700	1	138,700
0	0	0	0	0
1	201,567	229,693	1	229,693
1	105,720	323,800	1	323,800
1	78,160	0	0	0
1	8,872	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	345,499	331,409	1	331,409
0	0	135,216	1	135,216
0	0	26,480	1	26,480
1	100,122	41,496	1	41,496
0	0	0	0	0
0	0	5,637	1	5,637
1	37,000	500	1,412	706,000
1	137,200	0	0	0
1	13,870	500	24	12,000
0	0	0	0	0
1	111,240	25,000	1	25,000
939	563,470	800	1,245	996,000
1	54,600	300	60	18,000
0	0	12,440	1	12,440
1	9,792	22,125	1	22,125
1	30,240	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
1	108,000	91,000	1	91,000
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	19,980	1	19,980
	###			###

	0			26,212
--	---	--	--	--------

2019年度@中津川	2018年度@駒ヶ根	2017年度@関ヶ原
別会場	同じ会場	別会場
栴の湖オートキャンプ場他		近隣宿泊施設
はなのこ総合グラウンド倉庫		近隣宿泊施設
無	無	無
無	有	有(スプリント同日)
東海・関西・関東OBOG	OLCルーパー、YMOE	東海・関西・金沢OBOG
YMOE	YMOE	YMOE、岐阜県協会
EクラスSI、その他EMIT	EクラスSI、その他EMIT	SI (Eのみタッチフリー)
EMIT	EMIT	EMIT
YMOE	YMOE	NishiPRO (モディベ：YM)
YMOE	YMOE	YMOE

2016年度@前高原	2015年度@富士見
別会場	同じ会場
山川ハウス	会場近接宿泊施設
山川ハウス	会場近接宿泊施設
無	有
無	有
関東・東北OBOG	トータス
YMOE	NishiPRO、トータス
SI (Eのみタッチフリー)	SI
EMIT	SI
NishiPRO	NishiPRO
YMOE	NishiPRO

	参加者数	日数	交通費		
			レンタ台数	自家車台数	
第1回	11		1	1	1
第2回	20		2	1	3
第3回(最終)	20		2	1	3
2週間前準備	20		2	1	3
1週間前準備	20		2	1	3
当日	下記参照				

当日					
前泊	15		1	1	2
スプリント	60		1	3	9
ロング	60		1	3	9
後泊	10		1	1	2

#### ロング選手権のみ

当日					
前泊	30		1	1	2
ロング	30		1	3	9
後泊	10		1	1	2

小計	宿泊費 /day	小計	日当 /day	小計	合計	
	33,792	0	0	1,000	11,000	44,792
	72,000	0	0	1,000	40,000	112,000
	72,000	0	0	1,000	40,000	112,000
	72,000	0	0	1,000	40,000	112,000
	72,000	0	0	1,000	40,000	112,000
					545,500	
					1,038,292	

49,500	400	6,000	1,000	15,000	
148,500	1,933	116,000	1,000	60,000	
27,000	400	4,000	1,000	60,000	
49,500	0	0	1,000	10,000	
274,500		126,000		145,000	545,500

49500	1933	57990	1000	30000	
148500	400	4000	1000	30000	
49500	0	0	1000	10000	
247500		61990		70000	379490
					872,282

備考

だいたい実績  
ハウス前提  
ハウス前提  
ハウス前提  
ハウス前提

第1回

ハウス(前泊)  
ハウス + 休養村 (の平均)  
ハウス (後泊)

レンタカー代 (行き :	8690
高速料金 (渋谷・矢根	9260
ガス代	3291
高速料金 (渋谷・矢根	9260
ガス代	3291
	33792

レンタ	9000 /day
高速	10000 /往復
燃料	3500 /往復

準備+当日

レンタ

レンタ

レンタ

平山車概算

平山車概算

ここ数年の年毎の推移		IC開催地	
	2009年度	前高原・日光例幣使街道	2328枚
	2010年度	奈良嶽山・栂の湖	2767枚
	2011年度	松本アルプス高原・希望が丘	3542枚
	2012年度	足柄→富士こどもの国・日光所野	8521枚
	2013年度	富士奇石・矢板日新	11794枚
	2014年度	福井・作手高原	7986枚
	2015年度	長野富士見・塩谷熊ノ木	12626枚
	2016年度	天平・矢板前高原・マキノ	9759枚
	2017年度	上石津時・関ヶ原・不動の滝・日光高畑	12405枚
	2018年度	駒ヶ根・望郷の森	13221枚
最大値！	2019年度	中津川・矢板(中止)	13623枚

実施日	トレイン名	団体名	YMOE 伝票番号	枚数(特記無し は200円)	備考 【検証ファイル番号】	備考2
4月6日	不動の滝15000	地図代金／茨城大学	栃木2019-20	101	1	
4/20-21	日光例幣使街道	地図代金／千葉大学	栃木2019-22	35	2	
4/20-21	日光例幣使街道	地図代金／早稲田大学	栃木2019-21	133	3	
4/27-28	日光例幣使街道	地図代金／KOLC	栃木2019-23	165	4	
4月27日	高塩＋倉掛	地図代金／東京大学	栃木2019-24	39	5	
4月27日	倉掛湧水池			19		
5月11日	日光例幣使街道	地図代金／東京工業大学	栃木2019-25	54	6	
5/11-12	日光例幣使街道	地図代金／東京大学	栃木2019-26	211	7	
5/18-19	日光例幣使街道	地図代金／新潟大学	栃木2019-27	147	8	
5/18-19	日光和泉	地図代金／筑波大学合同	栃木2019-28	21	9	
5/18-19	日光口			94		
5月19日	高塩＋倉掛	地図代金／東京工業大学	栃木2019-29	32	10	
5月19日	矢板高塩			19		
5/18-19	霧降+不動北+高畑	地図代金／JOA合宿	栃木2019-30	30	11	3トレイン分版權
5/18-19	日光霧降			7		
5/18-19	日光高畑			22		
5/18-19	日光所野			63		
7/5-7	日光所野	地図代金／新潟大学	栃木2019-31	72	12	
7/14-15	日光和泉	地図代金／茨城大学	栃木2019-32	115	13	
7月16日	日光例幣使街道			58		
7/20-21	日光所野	地図代金／筑波大学	栃木2019-33	37	14	
7/20-21	日光高畑			43		
7月21日	不動の滝15000(北＋南)	地図代金／茨城大学	栃木2019-34	29	15	2トレイン分版權
7月21日	日光高畑			3		

7月22日	日光例幣使街道	地図代金／麻布高校	栃木2019-35	65	16	
7月23日	日光愛宕山			46		
7月24日	日光和泉			30		
7月25日	日光所野			76		
8月7日	不動の滝(北)	地図代金／東京大学	栃木2019-37	77	17	
8月10日	日光和泉	地図代金／KOLC	栃木2019-36	49	18	
8月18日	日光口	地図代金／千葉大学	栃木2019-38	59	19	
8月18日	日光口 特製(B4、版權同額)			1		
8月18日	日光和泉			43		
8月13日	和泉＋例幣使	地図代金／北東インカレ	栃木2019-40	269		2テレイン分版權
8月13日	日光和泉			5	20	
8月13日	日光例幣使街道			79		
8月12日	矢板運動公園			217		150円版權×2枚分
8月12日	矢板運動公園(2面付)			41		150円版權
8月14日	不動の滝(北)	地図代金／北東学連合宿	栃木2019-39	95	21	
8月20日	日光所野	地図代金／桐朋高校	栃木2019-41	41	22	
8月21日	日光高畑			89		
8月22日	日光愛宕山			136		
8月23日	日光例幣使街道			46		
8月24日	日光愛宕山	地図代金／茨城大学	栃木2019-42	21	23	
9月4日	日光例幣使	地図代金／関東新人戦	栃木2019-43	266	24	
9月20日	不動の滝(北)	地図代金／東京大学9月合宿	栃木2019-44	86	25	
9月21日	日光和泉			254		
9月22日	不動の滝(南)			128		
9月23日	日光高畑			98		
9月28日	日光愛宕山	地図代金／堀田自主練	栃木2019-45	8	26	
10月5日	不動の滝(南)	地図代金／ES関東C	栃木2019-46	72	27	
10/19-20	日光高畑	地図代金／金沢大学	栃木2019-48	194	28	
10月19日	日光和泉	地図代金／東京農工大学	栃木2019-49	36	29	
10月20日	日光例幣使街道			31		
10月25日	塩谷熊ノ木	地図代金／筑波大学	栃木2019-50	20	30	
10月26日	日光和泉			16		
10月26日	日光口			17		
10月26日	不動の滝(南)旧	地図代金／KOLC	栃木2019-51	91	31	
10月19日	矢板日新	地図代金／東北大学	栃木2019-52	106	32	
10月20日	毘沙門山			100		
11月2日	矢板運動公園	地図代金／新潟大学高野	栃木2019-53	65	33	150円版權×2枚分
11月3日	高塩＋倉掛			124		2テレイン分版權
11月2日	塩谷熊ノ木	地図代金／東京工業大学	栃木2019-54	94	34	
11月3日	矢板日新	地図代金／東京大学	栃木2019-55	113	35	
11/9-10	日光愛宕山	地図代金／浦和高校	栃木2019-56	48	36	
11月17日	矢板日新	地図代金／茨城県協会	栃木2019-57	41	37	
11月23日	塩谷熊ノ木	地図代金／茨城大学	栃木2019-58	47	38	

11月23日	矢板日新	地図代金／KOLC	栃木2019-59	55	39	
11月23日	塩谷熊ノ木	地図代金／東京農工大学	栃木2019-60	26	40	
11月24日	矢板幸岡			23		
11月30日	塩谷熊ノ木	地図代金／KOLC	栃木2019-61	65	41	
12月7日	矢板幸岡	地図代金／早稲田大学	栃木2019-62	362	42	
12月7日	日光愛宕山	地図代金／KOLC	栃木2019-63	151	43	
12月8日	矢板日新	地図代金／東京工業大学	栃木2019-64	77	44	
12月15日	矢板山苗代	地図代金／関東・北東ミドルセ	栃木2019-65	577	45	
12月21日	毘沙門山	地図代金／早稲田大学	栃木2019-66	56	46	
12月21日	矢板日新	地図代金／東京農工大学	栃木2019-67	72	47	
12月21日	日光和泉	地図代金／KOLC	栃木2019-68	86		
12月22日	日光例幣使街道			21	48	
12月23日	矢板日新			85		
12月22日	望郷の森	地図代金／東海学連	YMOE2019-46	322	49	請求ミス発覚！再請求許可を東海学連からもらう
9/15-16	望郷の森	地図代金／CC7	YMOE2019-50	1453	50	
2月29日	栴の湖	地図代金／阪神奈	YMOE2020-7	72	51	
						<注>栴の湖のこれらテレインの地図収入は
						岐阜県協会の収入です。両版權:加盟校→学連、それ以外→岐阜県協会
12月29日	浪漫ロゲ学連版權分支払い	800円分(所野・不動北・不動南・毘沙門山)	別会計	125	新規事業8	浪漫ロゲ別会計の証拠(自己記録)
12月29日	浪漫ロゲ学連版權分支払い	600円分(所野・不動南・毘沙門山)	別会計	117	新規事業8	はこのPCIにはなかった。監査用資料後日送付
1/12-13	日光愛宕山	地図代金／桐朋中学	栃木2020-1	10	52	
1月11日	毘沙門山	地図代金／KOLC	栃木2020-2	81	53	
1月17日	毘沙門山	地図代金／筑波大	栃木2020-3	47	54	
1月18日	日光所野	地図代金／新潟大	栃木2020-4	140	55	
1/19-20	日光愛宕山			198		
1月25日	矢板高塩	地図代金／筑波大	栃木2020-5	57	56	
1月26日	日光愛宕山	地図代金／千葉大	栃木2020-6	29	57	
2月1日	倉掛湧水池	地図代金／茨城県合同合宿	栃木2020-7	117	58	
2月2日	矢板高塩			76		
2月11日	日光和泉	地図代金／千葉大	栃木2020-8	38	59	
2月2日	塩谷熊ノ木	地図代金／東京大(下見込)	栃木2020-9	128	60	
2月8日	塩谷熊ノ木	地図代金／学連合宿(JOA分)	栃木2020-10	26	61	無料分以外=JOAセレ
2月8日	塩谷熊ノ木	YMOEのみの売上		285	61	無料分(学連内行事)
2月9日	日光所野	山リハ使用分(426名)+10枚		436		
2月15日	矢板日新	地図代金／KOLC	栃木2020-11	124		
2月16日	矢板幸岡			195	62	

2月17日	日光所野			157		
2月20日	矢板日新	地図代金／筑波大	栃木2020-12	79	63	
2月22日	矢板幸岡	地図代金／東北大	栃木2020-13	124	64	
2月23日	矢板日新			116		
2月22日	矢板日新	地図代金／東京大	栃木2020-14	180		
2月23日	倉掛湧水池			107	65	
2月24日	塩谷熊ノ木			120		
2月23日	毘沙門山	地図代金／岩手大	栃木2020-15	35	66	
2月24日	日光例幣使街道			79		
2月21日	塩谷熊ノ木	地図代金／東京農工大	栃木2020-16	39		
2月22日	矢板高塩			28	67	
2月23日	矢板山苗代			37		
2月28日	矢板山苗代	地図代金／金沢大	栃木2020-17	45	68	
3月1日	矢板日新			160		
中止	不動の滝(南)	地図代金／千葉大	栃木2020-18	46		中止だけど払ってくれた分
中止	毘沙門山	下見込		45	69	中止だけど払ってくれた分
中止	日光高畑	下見込		44		中止だけど払ってくれた分
中止	矢板山苗代	地図代金／名古屋大	栃木2020-19	88	70	中止だけど払ってくれた分
中止	矢板日新			88		中止だけど払ってくれた分
3月4日	矢板高塩	地図代金／練馬OLC	栃木2020-20	190	71	
3月11日	矢板山苗代	地図代金／千葉大OLC	栃木2020-21	74	72	
3月7日	矢板山苗代	地図代金／KOLC	栃木2020-22	120	73	
3月8日	日光和泉			169		
3月8日	矢板幸岡	地図代金／東京大	栃木2020-23	142	74	
3月8日	矢板高塩	地図代金／高野兼也	栃木2020-24	65	75	
		あとはすべて中止(印刷キャンセルの分)				中止分会計上は延期扱
		早稲田、東工大、北大、新潟大、 農工大、筑波大、OLT杯、すべての 新歓行事				

13198

【初出企画使用分】

9月29日	拡大毘沙門山	東京農工大大会	栃木2019-47		新規事業7	
		初出分		290		
		販売分・運営分		135		

425

13623

内訳

学連内部使用分(学連合宿・講習会)  
150円のもの地図売上(JSSOMマップ)  
200円のもの地図売上

285 学連合宿・講習会＜無料分＞  
605 2面付はダブルで請求  
12031

¥ -  
¥ 90,750  
¥ 2,406,200

学連フォレスト地図2枚分	422	¥	168,800
学連フォレスト地図3枚分	290	¥	174,000
学連フォレスト地図4枚分	125	¥	100,000

2019年度日本学連地図売上総額(確定値)	¥	2,939,750
-----------------------	---	-----------

<参考>

2018年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／5倉掛湧水池と6矢板高塩)	¥	2,796,600
2017年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／なし)	¥	2,184,000
2016年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／なし)	¥	1,708,850
2015年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／4塩谷田所)	¥	2,600,600
2014年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／3矢板山苗代)	¥	1,693,500
2013年度YMOE代行分の地図売上(新規地図作成事業／1毘沙門山と2矢板山田)	¥	2,575,800

## 【総括説明】

2013年度と2015年度は最終的な総額ではほぼ同じとなっているが、2013年度は新規地図作成事業が2件あることと、2015年度が最大値だが供給側の実情として、皆よく練習するようになり、複数メニュー地図(その拡大解釈の半サイズ地図)を多用するようになったことも上げられる。地図供給量としては2013年度よりさらに増えた、というのが実情

【説明】実績の良い(それは＝栃木でのインカレ開催)の2013年と2015年度で評価の視点を言えば、新規地図作成事業の数の違いによる初出分の違い、結局数値上は、2015年度の方が2013年度より、日光矢板で練習実績が多かったということになる。

【2016年度説明】春インカレが栃木の年とそうでない年とでは、1～3月の追い込み時期の使用実績が違う。しかし今年は秋インカレが栃木であり、また関東も北東もロングセレを栃木で行わなかった。2014年度と比較しての実績が良いのは、それだけさらに練習をするようになったことと、KOLC10回練習会やOLT杯、OC公開練習会、ときわ走林会公開練習会のように、地図と渉外環境を整えることにより、外部参加可能な大会スタイルの練習会イベント開催へのハードルを下げることに、この事業が寄与しているためと思われる。

【2017年度説明】今年度も春インカレが栃木の年となり1～3月の追い込み時期の使用実績が多い。しかしセレはロングもミドルも栃木開催ではなかった。最大値の2015年実績を超えるまでには至らなかった。部員数が安定し練習量もこの量で定着化か？新規地図作成事業もなかった。(正確には延期)

【2018年度説明】今年度は秋は駒ヶ根、春インカレは恵那とどちらもハウス周りではなかった。しかし、学連セレは関東も北東も関東のスプリントセレ以外はすべてハウス周りで行ったし、渉外の不調でインターハイも急遽日光での開催となった。1～3月の追い込み時期の使用実績はさすがに栃木でインカレ開催の年よりは少ない。新規地図作成

事業は前年度から延期になった倉掛湧水池(東工大大会)と矢板高塩(茨城大会)。特筆すべき事項として年末の百八式(ときわ走林会)で繋がった地図の売上利益が爆発的に多いこと、そして矢板市立西小の閉校により山リハもお礼興行をしたので、幸岡の利用数が爆発的に伸びたこと

【2019年度総括説明】新規地図作成事業も第7弾まで実績を重ね、第1弾で作成した「毘沙門山」をさらに新規拡大することで9月に25年ぶりに農工大大会を開催、さらに第8弾として日光北部の空白地帯を埋め、大桑から霧降・所野まですべての地図の接合がなった。巨大地図を利用した日光浪漫派ロゲイニングを12月に開催した。またこの接合地図でのロングセレの可能性を圧倒的に増し、翌年の誘致に繋げている(コロナで中止もしくは縮小にはなったが)。また集中して練習する傾向はさらに増した。2月後半からコロナによるキャンセルも相次いだが、まとめてみれば過去最大値の更新を2年連続で続けることになった。残念ながらコロナ禍のせいで春インカレは延期からの新年度に入って中止と学連の歴史上初めての事態となった。精神的な疲弊も大きかった。

【2020年度展望】コロナ禍の継続で地図売上は大幅減に転ずる。新規事業は第9弾で茨城大(これも延期)、別則適用第1例、コロナで小学校の学校開放中止で第10弾の矢板山田全面リメイクを中止(中断)、第10弾はさらに穴埋めピースを埋める形で東工大大会を申請予定、またしおや4Days企画で学連版權地図10枚分の大型収入も出現(巨大ポスター地図)

## 地図事業進捗・完成確認票

本票作成者 :

地図作成者 :

事業名 :

事業管理番号 : H —

番号	項目	内容	備考
1	事業提案受領日		
2	事業提案者	①日本学連構成員 ・ ②地図作成者	該当する方に○をする
3	地図作成者公募日		事業提案者が①であった場合のみ記載
4	地図作成者決定日		事業提案者が①であった場合のみ記載
5	事業計画書及び見積書受領日		
6	事業費見積総額	千円	
7	事業計画書及び見積書の理事会承認日		事業費見積総額が20万円以下の場合、地図会計担当理事の承認日を指す
8	事業計画書及び見積書の幹事会承認日		事業費見積総額が20万円以下の場合、幹事長、副幹事長及び会計の承認日を指す
9	事業計画書及び見積書の総会承認日		事業費見積総額が200万円超の場合のみ記載
10	契約書締結日、締結場所		
11	事業変更届受領日		提出があった場合のみ記載
12	事業変更届の承認日		事業変更届の提出があった場合のみ記載 総会、幹事会、理事会の全てについて記載
13	納品日、完了報告書兼請求書受領日		
14	検収完了日		
15	事業費支払日		事業費の支払いを証明する書類を添付する
16	利用報告書受領日		
17	利用報告書提出団体		
18	初回利用競技会		
19	修正報告書受領日		利用報告書において事業の瑕疵が指摘された場合のみ記載
20	本票提出日		

※ 日本学連会計担当者は、本票を随時記入することで適切に地図事業の進捗を管理するものとする。

※ 本票完成後は、速やかに幹事会及び理事会に提出する。



# インカレ開催基準の見直しについて

第3回臨時幹事会参考資料  
作成：幹事長若月俊宏

## 1. 概要

先日、筑波大学オリエンテーリング部より以下の意見書が提出された。

[意見書\\_筑波大学.docx](#)

これについて、開催基準の見直しの実施可否・内容含めて本幹事会で議論の上、今後の方針を決定したい。

## 2. 議論

論点は大きく以下の2点と考える。その他にも考慮すべき点があれば追加していきたい。

①指摘された問題点に対する回答

②開催基準の見直し及び議題1と同様の観点から各案を評価

①指摘された問題点に対する回答

今回の意見書で指摘を受けた現行の開催基準に対する問題点は以下の通り。

- ・3/4という数字の妥当性
- ・選手権出場人数によって大会開催の可否を判断することの正当性
- ・実際上の困難
- ・1種目のみあるいは男女どちらかのみ満たした場合の問題

これらの指摘に対しての、幹事会としての回答を作成する。幹事の中で納得のいく回答が作成できない以上、見直しは必至か。

②開催基準の見直し及び議題1と同様の観点から各案を評価

筑波大学からの提案を含む、新たな開催基準を策定

- ・選手権参加人数によるインカレ開催判断を撤廃（筑波大学案）

議題1と同様の論点から新基準のブラッシュアップを行う。

## 3. これまでの経緯

## 4. 参考資料

○現状の規制状況

[ICSL2021選手権参加者確認](#)

○その他追加していきます...

## 5. 今後の手続き

本幹事会で①②の観点から方針を決定&必要に応じて追加の議論を行う

→決めた方針について後日改めてGoogleFormなどを用いて幹事承認をとる

→必要に応じ総会を招集し、支出の承認などを取る&関係各所に通達

2021 年 9 月 13 日

## 意見書

筑波大学体育会オリエンテーリング部

はじめに

この意見書は「日本学連第 1 回臨時総会および第 2 回臨時幹事会の決定事項」として各校に連絡された内容の一つである「ICSL 開催判断基準(選手権の部の 3/4 以上の参加を目安に開催を判断)」について再考を要請するものである。

インカレ開催の意義について

日本学生オリエンテーリング選手権（以下インカレ）はオリエンテーリング競技における大学生の選手権者を決定する大会である。オリエンテーリングは日本においてはカレッジスポーツであり、かつ大学から競技を始める選手の割合が非常に高い。そのためインカレは単なる大学生による高次の競技会というだけでなく、日本におけるオリエンテーリング競技者育成システムの中心に位置している。近年は世界選手権や世界学生選手権、ジュニア世界選手権などで日本選手の活躍が目立つが、日本人選手はインカレを中心とした環境で切磋琢磨することにより、地理的ハンディキャップがある日本においても力を伸ばすことができていると考えられる。さらにインカレへの参加を実質的な参加必須行事としている大学も多く、競技を突き詰める選手だけでなく様々なバックグラウンドを持つ愛好者が集い交流する場である。加えて、若手の OB/OG はインカレを運営することにより運営ノウハウを蓄積し、各地域クラブや都道府県協会に持ち帰りそれらの振興に寄与している。

上に述べたようにインカレはその年の選手権者を決定するだけの刹那的なイベントではなく、日本オリエンテーリング界を支える人材を育成する場という重要な意義を持つ。日本オリエンテーリング界自身による将来への投資という見方もでき、開催中止という判断は簡単に行うべきではない。

問題点

- 3/4 という数字の妥当性

選手権クラスの質の担保としての数字と考えられるが、根拠となる説明が明示されていない。前年のインカレミドルリレーにおける開催判断の数字を引き継いでいるものと考えられるが、その際も根拠となる説明はなかったと記憶している（議事録が掲載されておらず詳細は分からない）。

- 選手権出場人数によって大会開催の可否を判断することの正当性

先に述べたようにインカレは選手権者の決定することを目的とするが、実際は日本オリエンテーリング界において様々な機能を持つ大会である。選手権出場人数だけで大会開催自体を判断することには疑問がある。

- 実際上の困難

新型コロナウイルスの感染状況により学生を取り巻く現状は厳しく、インカレのような大規模な大会であってもなかなか出場許可が出ないとの声を聞く機会が多い。そのような状況にあっても 1 か月前までに選手権参加者の 3/4 から出場の確約を取り付けることは実際難しいことが予想される。実際に 2020 年度インカレミドルリレーでは大会自体は開催可能な状況であったが選手権参加者の 3/4 の出場可能を満たせず、中止判断に至った。このような事態を繰り返すべきではなく、前向きな方向での開催検討が望まれる。

- 1 種目のみあるいは男女どちらかのみ満たした場合の問題

スプリントまたはロングのいずれかが開催要件を満たさなかった場合や、男子または女子のいずれかが開催要件を満たさなかった場合、インカレは開催されるのか現時点では不明である。特に男子または女子の一方が開催要件を満たさなかった場合には男女平等や公平性の観点から難しい判断が迫られる。

#### 提案

##### 1. 選手権参加人数によるインカレ開催判断を撤廃

これまで述べてきたように選手権参加人数だけでインカレの開催を判断することには論理的に問題があることに加え、実際のインカレ開催を困難にしてしまうことが予想される。選手権参加人数によるインカレ開催判断は行うべきではない。

##### 2. 選手権の質の確保

一方で選手権出場者があまりに少ないと選手権の質を担保できないことは事実である。技術委員会を中心にこの数字について再考し、出場者が当日までにその数字に達さなかった場合レースは行うが不成立、あるいは参考記録とすることを提案する。多くの学生はレース機会を望んでおり、競い合う場を確保することは重要だ。また人数の確保を目的として、大学の許可が下りなかったことが理由で出場できない場合、同地区の学連内での繰り上げ出場についても検討するべきと考える。

##### 3. 経済面の問題

選手権参加人数によりインカレの開催の可否を判断する理由として、経済的な問題も存在すると思われる。しかしながら選手権出場者数とインカレ参加人数は必ずしも関連するわけではない。加えて上述の通り長い目で見ればインカレは投資の場であり、現時点での日本学連の経済状況を重視するあまりインカレ開催を見送るのは本末転倒ではないか。新型コロナウイルスの蔓延により今学生オリエンテーリング界は歴史的に見ても苦境に立たされている。今まで使用してこなかった財源の活用や、当該年度のインカレ開催を目的として明確に据えた寄付を広く募るなど、インカレ開催を第一とした財務に期待したい。

## インカレSPU構想について

第3回臨時幹事会参考資料  
作成：幹事長若月俊宏

### 1. 概要

インカレの継続的な開催に向けた日本学連の新しい常設委員会「インカレSPU」の設置に向けて、関連規約の改正および細則の新規作成を行いたい。

本議案は連盟規約の改正が伴うため最終的には総会承認が必要な案件となる。本幹事会ではインカレSPUの構想や関係規約の改定案・細則新設案について幹事承認をとる。

### 2. 詳細

下記フォルダを参照

[インカレSPU](#)

### 3. 今後の手続き

本幹事会で①or②から方針を決定&必要に応じて追加の議論を行う

→決めた方針について後日改めてGoogleFormなどを用いて幹事承認をとる

→承認事項を加盟校および関係各所に通達

# 中長期的なICSのあり方に関する検討

---

作成：ICSPUメンバー 遠藤 匠真（大阪15）

## 背景

日本学生選手権スプリント競技部門（ICS）が初めて正式に開催された2015年から6年が経過した。この期間、事後修正を前提に見切り発車した懸念点や、開催回数を重ねることで判明した構造問題が顕在化しており、ICSの持続可能性は危機的な状況にある。加えてコロナ禍によって学連の人的/財務的基盤が揺らいでいる今、これまでのICSを見つめなおし、存廃の議論も含めて中長期的に持続可能なあり方を提示することは、当座の危機管理と同等に優先されるべき急務である。

しかしながら、この議論に不可欠なICSの当初理念や運営実務での問題点は現役学生にとって馴染みのない情報といえる。このため本件は、

- 過去の経緯に通じた理事会
- 今後のIC中長期開催計画を実働的に担うSPU
- 学生代表である幹事会

の3者の相互連携を基調としたい。

この前段階として、本件を幹事会の場でハンドリングできる粒度に落とし込む作業が必要であると考えており、幹事長を筆頭に少人数の有志で論点を整理されたい。本資料はその参考として提供するものである。スケジュールとしては**2021年度末の幹事会の場において議論に着手できること**を目標とする。

## 問題の構造

本件は、（コロナ禍を経て悪化した面はあるものの）基本的にコロナ禍以前より積み残されていた課題であることを最初に認識されたい。つまり、コロナ禍からの緊急避難的な暫定策ではなく、少なくとも10年後の学連の姿を念頭においたスキームを構築すべきである。この前提のもと、問題の構造は以下のように整理できる。

項目	内容
ICS開催形態の見直し	現在のICSの開催形態は近い将来に破綻する可能性が高いため、今後あるべきスキームを提示する。これは「今のICSを続けるためにどうするか」ではなく、「ICL，ICM，ICRも含めてIC全体を持続していくためにICSはどうあるべきか」という視点から検討されなければならないことに注意されたい。 現状の問題点/疑問点については理事会/SPUで整理したものを後述するので参考にされたい。
優良スプリントトレインの計画的保全	ICSの要求水準に耐えるスプリントトレインは極めて希少である。これをICSで無計画に消費し尽くすことはオリエンテーリング界の全体利益に反するうえ、年々ICS自体の開催難易度を悪化させることになる。 新規トレイン開拓の努力と並行してトレイン濫用を抑制するために、JOAとの連携や地区セレクションの見直しを含めた方策を検討する。
ICSガイドラインの改定	5年を目途に改定する前提で施行されたICSガイドラインについて、当初理念と現状とのギャップ、現状と将来像とのギャップを意識しながら内容を変更する。

これらの議題は個別に処理できるものではなく、総合的な解決策を示さねばならない。例えばICSのガイドライン改定は今後のICS開催形態が決まらなければ着手不可能であるし、ICS開催形態を考えるためにはトレイン保全策も検討する必要がある。

これを踏まえ、本件は以下のステップを踏むことが適切と考える。

1. 本資料を参考としつつ、幹事長+αの有志によって、「幹事会で議論する争点」を決定する。

幹事会場で本件のような切り口の多すぎる議題、スキームをゼロから立ち上げるような議題を扱うのは難しく、仮に扱うとしても合宿形式が必要なほど時間を要する。すなわち、最初に幹事長+αの有志によって本件の着地点の大枠を立ててしまい、そのうえで広く意見を求めたいこと、判断が必要なことのみを幹事会の議題とした方が円滑であるし、そのような前例も実際にある。なお、この過程で理事会/SPUの見解が追加で必要になった場合は連絡されたい。

2. 「幹事会で議論する争点」を理事会/SPUに報告し、チェックを受ける。

ここでのチェックは「幹事会で討議する項目が整理できているか」、「検討項目に抜け漏れがないか」という点に着目して行う。

3. 幹事会での議論と総会承認取得のスケジュールを策定し、目標施行年度を決定する。

議論が無為に長期化することを防ぐため「結局いつのICSから新スキームを適用するのか」を明確に言語化し、堅持すべき目標とする。これはSPUが担うIC中長期計画に直結するため重要である。

4. 幹事会での議論に着手する。

繰り返しになるが本件の解決は急務であり、非常に優先度の高い議題であることを意識して議論されたい。必要であれば理事会/SPUからも幹事会に出席して確認や照会のリードタイムを削るべきである。

5. 最終的なアウトプット（文書化された成果物）を提示し、実業務での施行開始。

理事会/SPUとも方針を共有し、グランドデザインを着実に履行していく。

# 理事会/SPUとしての見解

2021年11月8日、理事会とSPUの間でミーティングの機会を設け、これまでのICSの振り返りや現状の課題整理を実施した。その内容を以下に整理する。

## これまでのICSで顕在化した課題（末尾資料も参照）

ICSが導入されてからの6年間、秋ICがロングディスタンス競技部門のみであった時代と比較して

- 運営負荷が極端に上昇
- 運営者のモチベーション低下
- 大会企画の遅れが常態化

などの問題が顕在化している。昨今、運営者への日当増額が叫ばれるようになっているが、これはICの歴史の中でも前代未聞であり、本来は自らの喜び、先輩への恩返しのためにIC運営に従事していたのが今や苦役となりつつある証拠といえる。この現状について学連関係者は真摯に受け止め、速やかに是正していかなければならない。

## 現状に至る過程の考察

現在の窮状は、ICS導入から以下の過程を経て至ったものと推察される。

1. スプリントとロングという異質な競技を併催したことで、秋ICの運営負荷が従前の2倍以上となる。

ICSが定着する以前、我が国のスプリントといえば「パークO」とほぼ同義であり、単に足の速い選手が勝つ種目、フォレストより一段下のものと見られていた。そうした文化の中でICSを単独開催したとしても興行面で大失敗に終わる可能性が高い。このため確実な集客力をもつイベント（=ICL）と併催する形態をとるよりほかなかった。しかしトレインや運営資材のほとんどを共有できるICM/ICRの関係とは異なり、ICS/ICLは会場すら別になることが普通である。すなわち、スケールメリットが生じないにも関わらず**IC1回分の人的リソースでICを2回運営させられる**構図になってしまった。特にICSは渉外業務や安全確保、競技上の膨大なチェック業務などでフォレスト種目以上の労力を要する大会であるから、秋ICの運営負荷は従前の2倍では済まない。個人的な経験からしても、達成感や満足感以上に無視できない疲弊感があったのが実態である。

運営者を増やせば良いという見方もあるだろうが、そもそもIC運営の主要役員を担えるモチベーションやスキルをもったOB/OGの絶対数は多くなく、一度学生競技を引退した人間を強制的に招集する術はどこにもないことに注意されたい。

2. 運営負荷の増大により、運営経験者のIC離れ傾向が強まる。

IC運営を楽しむことができれば運営者がリピーターとなって次回、次々回と継続して運営に参画することも期待できるが、上述の事情からそうなりにくい状況ができあがった。また、相当のスキルがなければ最低限の運営業務もこなせないというイメージが拡散し、運営初心者の参画障壁も上昇した。結果として責任感とスキルを有する少数の人材をヘビーローテーションする形になり、人的リソースの保全状況が劣悪なものとなった。

3. スプリント企画の困難さから、大会企画立案/実行委員会発足が遅延するようになる。

上述のようにICSを開催する場合、適格トレインの探索、多数の走者が駆け回ることへの許認可取得、ICにふさわしい競技性の確保など多くのハードルがある。しかも、ICS導入によって学生が「パークO」では満足せず、それなりの質の「スプリント」を希求するようになった。これはスプリント文化の醸成としては狙い通りであったが、それゆえにむしろICSの開催障壁を高めるという負のフィードバックがかかっている。このようなハードルの中で大会の企画を早期に提示することは難しく、秋ICの運営組織発足もトコロテン式に遅れることとなる。

#### 4. 実行委員会発足の遅れによって準備期間が減少し、ますます運営負荷が高まる。

実行委員会の発足遅延によって運営負荷はさらに高まり、運営者の疲弊/モチベーション減退は加速した。また、本来「この夢のあるトレインでICSを開きたい」「競技面で新たな試みを導入したい」などといった前向きかつ主体的なトピックでモチベーションを向上するのが健全なIC運営であるはずだが、準備期間の減少によってそうした取り組みも困難になってきた。「すぐにICを開ける場所」が事前に用意され、そこに運営者があてがわれるというのが近年増えている構図である。

## 論点の整理

### ICSの功罪

6年間にわたって学連の資源を惜しげなく投入しつづけたICSは、オリエンテーリング界に相応の影響を及ぼしてきた。以下は「ICS功罪マトリックス」である。

影響	導入からこれまで	将来
ポジティブ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学生選手権者決定機能の創出</li><li>・ 学生だけのスプリントの祭典の創出</li><li>・ 本格スプリント文化の醸成</li><li>・ スプリント競技水準の向上</li><li>・ 国際的プレゼンスの向上</li><li>・ 競技/演出でのイノベーション促進</li></ul>	左に同じ
ネガティブ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テレイン資源の大量消費</li><li>・ 運営者からの「やりがい搾取」</li><li>・ 秋IC収益性の不安定化</li><li>・ ICL開催計画の不安定化</li></ul>	左に加え ・ 持続可能なICの喪失

ICS導入当初の理念は、エキシビション競技としての本格的スプリントを普及させ、以て日本のオリエンテーリングが国際水準にキャッチアップする一助とすることである。この観点でICSは一定の成果を出しており、さらにICSが文化として定着した中で新たな価値も生み出してきた。一方で少なからずIC開催体制に歪をもたらし、IC全体の持続可能性を脅かすおそれすらある。

こうしたICSの功罪を捉えた上で新たなスキームを築くための切り口を2つ示しておく。

### ポジティブな影響に優先度をつける切り口

ICS功罪マトリックスに示したポジティブな影響のうち、ICSでなければ実現できないこととは何か。仮にICS以外のイベントでICS同等の効果を得られるのであればICSを保守する動機はなく、開発を終了して代替サービスへの移行をサポートすべきである。

例えば、# 学生スプリント選手権者の決定 # 日本のスプリント競技水準を国際レベルに というタグのみを抽出するならば、それは全日本スプリントに学生部門を併設することで実現可能であるし、副次的にテレイン資源の消費ペースも抑制でき、大会のスケールメリットも向上する。特にJOAスプリント委員会によるテコ入れが図られている今であれば、俄然現実味ある話である。

本件がそう簡単でないのは、結局のところ # 学生だけのスプリントの祭典 というタグが学生にとって最重要だからではないか、と理事会/SPUIは考えている。一方でICでお祭り騒ぎができたのも2年前の話となっている今、OBと現役学生の間で価値観の溝が生まれている可能性も否定できないし、お祭りとしてのICSを諦めるチャンスなのかもしれない。

いずれにせよ、ICSが果たす役割のうち何が譲れないのか言語化して優先度をつけていただきたい。このとき学生の立場から青写真を描くのは大歓迎であるが、同時に自分自身が運営者となる可能性も意識して現実味ある将来像をイメージされたい。自分ができないことは他人にもできない。

## ネガティブ影響をゼロにする切り口

検討の結果、ICSはあくまでICSとして保守するという結論に至るのであれば、IC全体が持続可能となるようにICSの機能をオミットするか、ICSのメジャーアップデートを行うしかない。

例えば、ICS功罪マトリックスに示したネガティブ影響のうち、多くはICSとICLを併催することに起因している。この併催は前述したように興行面が理由であるから、スプリント文化が根付いた今ならICS単独開催も夢ではないかもしれない。ただし、実際に併催が解消されたICS2020では参加者が315名。ICL2020の参加者数439名とは大きく差がついており、ICS単独での市場規模は未だフォレストに及ばないのではないかと思わせる不穏な結果である。

もちろんICS自体は多少の赤字（学連からの事業支出）を前提に導入されたものであって、度を越えた会計状況でなければ大きな問題はないのだが、ICSは本質的に高くつくイベントゆえ「度を越えた会計状況」は意外と容易に生じる。そして会計的なガバナンスの観点からも、ICSが垂れ流す赤字を無尽蔵に許容することはできない。

ICS単独開催を検討するにあたって理事会/SPUから提案したいのは、ICSの興行成績に数値目標を持たせることである。例えば、学連の財政的体力から許容できる支出上限を予め規定し、「3年連続で支出上限を超過したら翌年のICSは全日本スプリントに併設する」というような安全弁を設けておけば収拾のつかない赤字は回避できるし、市場拡大へのモチベーションにもなりうる。

ここまでICS単独開催について詳しく述べたが、あくまでもネガティブ要素を潰すことに主眼を置いてゼロベースで検討されたい。なお、独立大会としてのICSを維持する以上はトレイン資源保全が一層課題となるため、地区セクションのあり方、SPUを窓口としたJOAとの連携など、トレインコントロールについても抜本的対策が求められることを書き添えておく。

---

## 【参考】時系列で見るICS運営面の課題

本稿は過去のICS報告書のうち、運営面での課題や提言を抽出したものである。事業者目線ではYMOEの山川氏がICS2020報告書のChapter7に詳細なレビューを投稿されているため、そちらも参照されたい。

## 2015：富士見高原リゾート

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、トータスが主体となって運営
- 初の公式なICSとしてICLと併催
- ICS/Lトレインを統合することで大会エリアを一体化
- 一般クラスはなく、出走間隔を極小化した選手権チャレンジクラスを設置

### 反省点

- 本来EAがS/L別であるべきところ兼任した

## 将来への提言

- 「渉外問題なく」「競技が成立する」ことを優先してテレインを選定すべき
- 一般来園客の安全確保のため、多数の役員を要した

## 2016：天平の丘公園

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、YMOEが主体となって運営
- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- 会場移動の都合上ロングのモデルイベントが消滅
- 選手権チャレンジクラスを設置

### 反省点

- ICS/Lのテレインが遠い中で運営者負担の軽減を試みた結果、運営母体であったYMOEの負担が増大した
- 競技性を優先してICSテレインを遠隔地とした結果、モデルイベントの開催が不可能となり、会計圧迫につながった

### 将来への提言

- 併催を前提とする以上、運営工数の観点からICS/Lのテレインは可能な限り近接しているべき
- 併催を前提とする以上、モデルイベントの開催可能性は流動的であるため、参加費引き上げ等の収益対策が求められると考える

## 2017：時

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、岐阜県協会が主体となって運営
- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- 大垣市上石津町での集落スプリントを実施
- 選手権チャレンジクラスを設置

### 反省点

- 地図作成の進捗状況管理に膨大な工数を要し、地図律速となる業務に大幅な遅延を生じた
- 地図作成業務と渉外業務が1名に集中しており、結果として大会直前期に渉外業務の未着手や対応遅れが発覚した
- 岐阜県の補助金や参加者数の上振れといった収入増要素があったものの、最終的には学連からの支出が発生した

### 将来への提言

- ICS/Lのテレインが相互に遠い場合、それぞれに運営責任者を設けることが望ましい
- ICSガイドラインと実情に既に齟齬が生じており、段階的な見直しが求められる
- 特にICSでは渉外上の理由から参加者数キャパシティに限度があるため、会計健全化/安定化に向けて参加費単価増額はある程度許容されるべき
- モデルイベントは増収効果大であり、今後も可能な限り開催されるべき
- 運営者モチベーション維持の観点から、日当の増額が望まれる
- ICS単独での収益力について調査し、単独開催可否について机上検討されるのが望ましい

## 2018：駒ヶ根公園家族旅行村

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、YMOEとOLCルーパーの協業で運営
- ICS/Lテレインを統合することで大会エリアを一体化
- 3日間開催とし、モデルイベントを開催しつつICS一般クラスを設置
- 競技エリア全域を観戦時に開放

### 反省点

- 純粋なフランチャイズ制としては応募者が現れず、YMOEの手持ちカード（地図資産/渉外基盤）を1枚切る形で開催せざるを得なかった

### 将来への提言

- 本大会で採用した3日間開催は、学生の夏季休暇期間での開催が前提とはなるものの、収支改善のために有効である

## 2019：中津川公園

### 概要

- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- モデルイベントを断念し、ICS一般クラスを設置

### 反省点

- 前年に引き続きYMOEの手持ちカード（地図資産/渉外基盤）を1枚切る形で開催されており、初期渉外業務の実施後に運営組織が立ち上げられたため、実行委員会発足時点でテレインに選択の余地がなかった
- 役員選定が極端に遅延しており、十分な運営準備期間がなかった
- 2016年以降、秋/春ICのうち半数以上が中部・関西地区で開催されており、運営者が枯渇しかけた状態にあったことで業務負荷的に歪な人事配置となった
- YMOE渉外基盤に依存したことで実行委員会側は渉外業務から解放された一方、進捗管理が困難になった
- いわゆる「パークO」では競技者の要求水準を満たせない風潮の中、スプリント競技への適格性に欠けるテレインで高度なコースを設定したことが背景要因となり、調査依頼および提訴が発生した

### 将来への提言

- 運営組織立ち上げおよびEA選任の遅延は準備期間減少に直結するため、少なくとも1年前の時点で役員の目途が立つよう、学連側において主体的かつ適切にコントロールされるべき
- ICSの競技パートの業務負荷は年々増大しており、その人事配置と業務分担については前例にとられることなく柔軟に最適化されるべき
- IC開催地が特定の地区に偏ることは、人的資源の観点で持続可能性に欠けるため、ICが開催可能な土壌を各地で形成する必要がある
- IC実施規則/ICSガイドラインの実情との乖離が年々進んでいるため、早急な改定が望まれる

## 2020：那須野が原公園

### 概要

- 当初予定されていたICSが渉外上の理由で中止となり、代替大会として開催
- 地区予選を実施する時間がなく、予選/決勝方式を採用
- 短納期かつ人員不足が見込まれたため、学連での合意形成の上で学生運営者を組み込んだ

### 将来への提言

- 運営者を全員学生とすることは現実的に不可能
- 演出費用は競技性向上に直接寄与しない一方で会計上の負担が大きい。演出費用を参加費のみで支弁するのではなく、補助金の活用等の見直しが求められる
- ICの継続性を優先する場合、新規テレインや大幅リメイクを要するテレイン以外でのIC実施が会計上有効である
- この代替大会においても開催上のコア領域はYMOEが掌握しており、YMOEがICSから完全撤退することを前提に構造変革を行う必要がある
- スプリント競技への適格性を有するテレイン資産は有限であり、全日本大会をはじめとする大規模大会での利活用も視野に入れて保全されるべき。特に新規テレインでの地区予選開催の必要性は要検討

# 2021/11/08 ICSスキーム見直し

## 本日の議案と着地点

☐ ICS継続開催の是非に関する合意形成

☐ 学生の自治領域，理事会専決事項の整理

学生自治	理事会専決

☐ 理事会およびインカレSPUとしての長期スキーム案を複数策定

課題	解決案	メリット	デメリット
適格トレインの枯渇			
不安定な収益性			
タイトな開催日程			
競技面での工数増大			
過度のYMOE依存			
フランチャイズ制の破綻			

☐ 理事会およびインカレSPUとしての長期スキーム案を複数策定

スキーム案	内容	メリット	デメリット

## これまでのICS（時系列）

### 2015：富士見高原リゾート

#### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き，トータスが主体となって運営
- 初の公式なICSとしてICLと併催
- ICS/Lトレインを統合することで大会エリアを一体化
- 一般クラスはなく，出走間隔を極小化した選手権チャレンジクラスを設置

#### 反省点

- 本来EAがS/L別であるべきところ兼任した

## 将来への提言

- 「渉外問題なく」「競技が成立する」ことを優先してテレインを選定すべき
- 一般来園客の安全確保のため、多数の役員を要した

## 2016：天平の丘公園

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、YMOEが主体となって運営
- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- 会場移動の都合上ロングのモデルイベントが消滅
- 選手権チャレンジクラスを設置

### 反省点

- ICS/Lのテレインが遠い中で運営者負担の軽減を試みた結果、運営母体であったYMOEの負担が増大した
- 競技性を優先してICSテレインを遠隔地とした結果、モデルイベントの開催が不可能となり、会計圧迫につながった

### 将来への提言

- 併催を前提とする以上、運営工数の観点からICS/Lのテレインは可能な限り近接しているべき
- 併催を前提とする以上、モデルイベントの開催可能性は流動的であるため、参加費引き上げ等の収益対策が求められると考える

## 2017：時

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、岐阜県協会が主体となって運営
- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- 大垣市上石津町での集落スプリントを実施
- 選手権チャレンジクラスを設置

### 反省点

- 地図作成の進捗状況管理に膨大な工数を要し、地図律速となる業務に大幅な遅延を生じた
- 地図作成業務と渉外業務が1名に集中しており、結果として大会直前期に渉外業務の未着手や対応遅れが発覚した
- 岐阜県の補助金や参加者数の上振れといった収入増要素があったものの、最終的には学連からの支出が発生した

### 将来への提言

- ICS/Lのテレインが相互に遠い場合、それぞれに運営責任者を設けることが望ましい
- ICSガイドラインと実情に既に齟齬が生じており、段階的な見直しが求められる
- 特にICSでは渉外上の理由から参加者数キャパシティに限度があるため、会計健全化/安定化に向けて参加費単価増額はある程度許容されるべき
- モデルイベントは増収効果大であり、今後も可能な限り開催されるべき
- 運営者モチベーション維持の観点から、日当の増額が望まれる
- ICS単独での収益力について調査し、単独開催可否について机上検討されるのが望ましい

## 2018：駒ヶ根公園家族旅行村

### 概要

- 運営母体フランチャイズ制を敷き、YMOEとOLCルーパーの協業で運営
- ICS/Lテレインを統合することで大会エリアを一体化
- 3日間開催とし、モデルイベントを開催しつつICS一般クラスを設置
- 競技エリア全域を観戦時に開放

### 反省点

- 純粋なフランチャイズ制としては応募者が現れず、YMOEの手持ちカード（地図資産/渉外基盤）を1枚切る形で開催せざるを得なかった

### 将来への提言

- 本大会で採用した3日間開催は、学生の夏季休暇期間での開催が前提とはなるものの、収支改善のために有効である

## 2019：中津川公園

### 概要

- ICS/Lのテレインが地理的に隔絶
- モデルイベントを断念し、ICS一般クラスを設置

### 反省点

- 前年に引き続きYMOEの手持ちカード（地図資産/渉外基盤）を1枚切る形で開催されており、初期渉外業務の実施後に運営組織が立ち上げられたため、実行委員会発足時点でテレインに選択の余地がなかった
- 役員選定が極端に遅延しており、十分な運営準備期間がなかった
- 2016年以降、秋/春ICのうち半数以上が中部・関西地区で開催されており、運営者が枯渇しかけた状態にあったことで業務負荷的に歪な人事配置となった
- YMOE渉外基盤に依存したことで実行委員会側は渉外業務から解放された一方、進捗管理が困難になった
- スプリント競技への適格性に欠けるテレインにおけるコース設定の難しさが背景要因となり、調査依頼および提訴が発生した

### 将来への提言

- 運営組織立ち上げおよびEA選任の遅延は準備期間減少に直結するため、少なくとも1年前の時点で役員の目途が立つよう、学連側において主体的かつ適切にコントロールされるべき
- ICSの競技パートの業務負荷は年々増大しており、その人事配置と業務分担については前例にとられることなく柔軟に最適化されるべき
- IC開催地が特定の地区に偏ることは、人的資源の観点で持続可能性に欠けるため、ICが開催可能な土壌を各地で形成する必要がある
- IC実施規則/ICSガイドラインの実情との乖離が年々進んでいるため、早急な改定が望まれる

## 2020：那須野が原公園

### 概要

- 当初予定されていたICSが渉外上の理由で中止となり、代替大会として開催
- 地区予選を実施する時間がなく、予選/決勝方式を採用
- 短納期かつ人員不足が見込まれたため、学連での合意形成の上で学生運営者を組み込んだ

### 将来への提言

- 運営者を全員学生とすることは現実的に不可能
- 演出費用は競技に直接寄与しない一方で会計上の負担が大きい。演出費用を参加費のみで支弁するのではなく、補助金の活用等の見直しが求められる
- インカレの継続性を優先する場合、新規トレインや大幅リメイクを要するトレイン以外でのインカレ実施が会計上有効である
- この代替大会においても開催上のコア領域はYMOEが掌握しており、YMOEがICSから完全撤退することを前提に構造変革を行う必要がある
- スプリント競技への適格性を有するトレイン資産は有限であり、全日本大会をはじめとする大規模大会での利活用も視野に入れて保全されるべき。特に新規トレインでの地区予選開催の必要性は要検討

# インカレ SPU の設置

遠藤匠真（大阪 15）

## 1．概要

インカレは、理事会が 40 年に渡ってその開催責任を担ってきた。しかし理事任期の長期化による活動鈍化や、インカレ開催に尽力されてきた山川副会長の健康問題により、現在のインカレは持続可能性の低い、不安定な事業となりつつある。特に具体的な課題として挙げられるのがインカレテレインコントロールの形骸化（≡中長期的計画の不在）である。

この課題に対して、理事会のシンクタンクの機関としてインカレ開催計画の立案とその初期手配を機動的に担うインカレ・サステナビリティ・プランニング・ユニット（インカレ SPU）を設置したい。

## 2．詳細

- インカレ SPU は、具体的には以下の特徴を有したユニットである。
- 日本学連の常設委員会
  - 定数 4~8 名程度の規模
  - 任期は 2~4 年であり、再任は妨げない
  - 規程（別添）に基づいてインカレの中長期（4 か年程度）計画を策定し、初期手配を担う

過去にはテレインコントロール業務に特化したワーキンググループ（TCWG）が存在したが、人事面の新陳代謝に失敗し、形骸化して今に至る。インカレ SPU は TCWG の復活を企図しつつも、長期的な脱・YMOE 依存を見据えた業務要件を設定していることに留意されたい。

インカレ SPU は技術委員会，AD 委員会，スキー O 委員会と並ぶ日本学連 4 つ目の常設委員会であり，その設置にあたっては，以下の規定改定・作成が必要となる。

日本学生オリエンテーリング連盟規約	第 48 条（常設委員会）にインカレ SPU を追記
インカレ SPU に関する細則	新規作成

幹事会におかれては，本件の趣旨についてご確認いただいたうえで上記 2 点の手配をお願いしたい。

(案)

## 日本学生オリエンテーリング連盟規約

### 第1章 総則

(名称)

第1条 本連盟は日本学生オリエンテーリング連盟と称し、国際的には The Inter-University Orienteering Federation in Japan と称する。

(所在地)

第2条 本連盟の所在を、以下に定める。  
〒329-2441 栃木県塩谷郡塩谷町船生 6082-68

(目的)

第3条 本連盟は日本の学生オリエンテーリング界を統轄し、代表する唯一の学生自治団体であり、学生競技者精神を遵守して日本のオリエンテーリングの普及、発展、および競技環境の保全に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 1 本連盟は前条の目的を達成するため、次の各号の事業を行う。

- (1) 日本学生オリエンテーリング選手権大会の開催
- (2) オリエンテーリング競技用地図の作成と保有
- (3) 連盟報、その他刊行物の発行
- (4) 本連盟の目的に適う一切の事業

第4条 2 日本学生オリエンテーリング選手権大会（以下「インカレ」と略す。）は、国際的には The Japan Inter-Collegiate Orienteering Championships と称する。

(年度)

第5条 本連盟の年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

### 第2章 組織

(組織)

第6条 本連盟は6つの地区学生オリエンテーリング連盟（以下「地区学連」と略す。）で組織し、その名称と管轄範囲は次の各号の通りとする。

(案)

- (1) 北海道東北学生オリエンテーリング連盟（北海道、青森県、秋田県、山形県、岩手県、宮城県、福島県）
- (2) 関東学生オリエンテーリング連盟（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県）
- (3) 北信越学生オリエンテーリング連盟（長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県）
- (4) 東海学生オリエンテーリング連盟（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県）
- (5) 関西学生オリエンテーリング連盟（京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、滋賀県）
- (6) 中国九州四国学生オリエンテーリング連盟（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、大分県、宮崎県、沖縄県、愛媛県、高知県、徳島県、香川県）

### 第3章 地区学連

(地区学連)

第7条 地区学連は、前条の各管轄範囲において、第3条に定める目的を達成するための自治を行う団体である。

(地区学連の規定)

第8条 1 地区学連の規定は本連盟の規定に準じて作られ、その制定と改廃にあたっては本連盟総会の承認を受けなければならない。ただし、地区学連がもっぱら実務上の必要に応じて制定するガイドライン、覚書等についてはこの限りでない。

第8条 2 不備によって本連盟の規定と地区学連の規定に不整合が生じた場合、本連盟の規定を優先して適用する。ただし、本連盟と地区学連は協議の上速やかに不備を修正して不整合を解消しなければならない。

### 第4章 加盟

(加盟)

第9条 1 本連盟および地区学連は、第3条に定める目的に賛同する大学等の教育機関をいつでも加盟させることができる。

第9条 2 地区学連への加盟を以て、本連盟にも加盟したものとする。

(案)

(加盟資格)

第 10 条 1 本連盟および地区学連に加盟できるのは、学校教育法および同施行規則の設置基準によって設置された大学院、大学院大学、大学、短期大学、高等専門学校（以下「大学等」という。）で、地区学連に認められたものとする。

第 10 条 2 前項に定める大学院、短期大学、高等専門学校等は、これが大学に付設されている場合においても独立した教育機関とみなし、原則として大学とは別個に加盟するものとする。

(加盟形態)

第 11 条 本連盟および地区学連に加盟する際の形態は、加盟校または準加盟校とする。

(加盟の申請)

第 12 条 1 本連盟および地区学連に新規に加盟しようとする大学等は、地区学連に申請を行い、その承認を得なければならない。

第 12 条 2 加盟形態等の申請事項に変更を生じた加盟校および準加盟校は、直ちに地区学連に届け出なければならない。

(加盟校および準加盟校の権利)

第 13 条 1 加盟校は、本連盟総会に出席して議決権を行使できる。

第 13 条 2 準加盟校は、本連盟総会に出席できる。

(加盟校および準加盟校の義務)

第 14 条 1 加盟校および準加盟校は、本連盟の規定および地区学連の規定を遵守しなければならない。

第 14 条 2 加盟校は、本連盟総会に出席しなければならない。

## 第 5 章 競技者

(競技者登録)

第 15 条 加盟校および準加盟校は、その構成員を競技者として本連盟の名簿に登録（以下「競技者登録」という。）することができる。

(案)

(競技者登録の更新)

第 16 条 1 競技者登録は年度毎に一斉に更新される。

第 16 条 2 前項に定める更新時以外においても、加盟校および準加盟校は競技者を新規に登録することができ、また競技者登録の内容を変更することができる。

(競技者登録資格)

第 17 条 加盟校および準加盟校が登録できる競技者は、次の各号を満たす者である。

(1) 所属する加盟校および準加盟校に正規生（聴講生、研究生等を除く）として学籍を有する者であること。ただし、高等専門学校については、本科の第 4 学年、第 5 学年または専攻科に学籍を有する者であること。

(2) 初めて競技者登録された年度の 4 月 1 日から起算して 4 年以内であること。

(3) 当該年度末の時点での年齢が 27 歳未満であること。

(競技者登録の申請)

第 18 条 1 競技者登録をしようとする加盟校および準加盟校は、本連盟事務局に申請しなければならない。

第 18 条 2 競技者登録の内容に変更を生じた加盟校および準加盟校は、速やかに本連盟事務局に届け出なければならない。

(競技者登録料)

第 19 条 競技者登録をしようとする加盟校および準加盟校は、必要に応じて競技者登録料を本連盟に納入しなければならない。

(競技者登録の抹消)

第 20 条 1 卒業、中退等の理由により第 17 条に定める競技者登録資格を喪失した者は、喪失の時点で年度の途中であっても直ちに競技者登録を抹消される。

第 20 条 2 次の各号に該当した者は、本連盟総会の決議によって競技者登録を一定期間抹消することができる。

(1) 本連盟および地区学連の規定に違反し、本連盟および地区学連に著しい不利益をもたらしたとき。

(2) 本連盟および地区学連の名誉を毀損し、または第 3 条に定める目的に反する行為をしたとき。

(案)

(3) その他競技者登録を抹消すべき正当な理由があるとき。

## 第6章 脱退と除名

(脱退)

第21条 1 加盟校および準加盟校は、地区学連事務局に届け出ることによって本連盟および地区学連を脱退できる。

第21条 2 加盟校および準加盟校は、その構成員たる競技者が1名未満となった時点で自動的に本連盟および地区学連を脱退するものとする。

第23条 3 組織変更等の理由により第10条1項に定める加盟資格を喪失した加盟校および準加盟校は、喪失の時点で自動的に本連盟および地区学連を脱退するものとする。

(除名)

第22条 加盟校および準加盟校が次の各号のいずれかに該当したときは、本連盟総会の決議によって当該加盟校および準加盟校を除名することができる。

(1) 本連盟および地区学連の規定に違反し、本連盟および地区学連に著しい不利益をもたらしたとき。

(2) 本連盟および地区学連の名誉を毀損し、または第3条に定める目的に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な理由があるとき。

## 第7章 総会

(総会の構成)

第23条 1 総会は、全ての加盟校の代表と本連盟の役員によって構成される。

第23条 2 総会は、加盟校総数の過半数の出席（委任状を含む）を以て成立とする。

(総会の義務)

第24条 1 総会は、本連盟の最高議決機関であり、次に各号に掲げる事項について議決、承認する。

(1) 予算および決算

(2) 役員の選出および罷免

(3) 規約等の規定の改正

(案)

(4) その他、本連盟の運営に関する重要事項

第 24 条 2 総会において、各加盟校は本連盟の運営もしくは資産の状況または役員の事務執行について、役員に対して意見を述べることができる。

(総会の招集)

第 25 条 1 総会は次の各号の場合、幹事長がこれを招集する。

- (1) 年 2 回の定例総会
- (2) 幹事長が必要と認めた場合
- (3) 幹事会が開催を議決した場合
- (4) 理事会が開催を議決した場合
- (5) 加盟校総数の 4 分の 1 以上の加盟校から、会議に付議すべき事項を示して  
総会の招集を請求された場合

第 25 条 2 前項第 5 号の規定によって加盟校から総会の招集を請求された場合、幹事長はその請求のあった日から 30 日以内にこれを招集しなければならない。

第 25 条 3 幹事長は総会を招集するにあたり、その日時、場所および会議の目的とされる事項を加盟校に対して会日の 14 日以前に通知しなければならない。

(議長)

第 26 条 1 総会に議長を 1 人置く。

第 26 条 2 議長は他の全ての案件に先立って加盟校代表の中から選出される。

(委任状)

第 27 条 総会にやむを得ず出席できない加盟校は、別に定める規則により、議長宛に委任状を託さなければならない。

(議決)

第 28 条 1 総会において、加盟校は平等の議決権、選挙権を有する。

第 28 条 2 総会の議事は、この規約に特別の定めのある場合を除いては、出席校の過半数を以てこれを決し、可否同数の場合は議長の決するところとする。

(緊急事項)

第 29 条 緊急を要する場合は、総会の議決を得なければならない事項についても幹事会がこれに代わって決定することができる。この場合、総会において事後承認を

(案)

得なければならない。

## 第8章 役員

(役員)

第30条 本連盟に次の各号の役員を置く。

- |             |       |
|-------------|-------|
| (1) 会長      | 1名    |
| (2) 副会長     | 3名    |
| (3) 参与      | 若干名   |
| (4) 理事      | 10名程度 |
| (5) 幹事長     | 1名    |
| (6) 副幹事長    | 1名    |
| (7) 会計      | 1名    |
| (8) 会計監査    | 2名    |
| (9) 事業部長    | 1名    |
| (10) 広報部長   | 1名    |
| (11) 普及部長   | 1名    |
| (12) 渉外部長   | 1名    |
| (13) 事務局長   | 1名    |
| (14) 地区代表幹事 | 6名    |

(会長)

第31条 1 会長は本連盟を代表する。

第31条 2 会長は理事会が推薦する。

(副会長)

第32条 1 副会長は会長を補佐し、会長の不在のときこれを代行する。

第32条 2 副会長は理事会が推薦する。

(参与)

第33条 1 参与は本連盟の重要事項についての諮問に応じる。

第33条 2 参与は理事会が推薦する。

(理事)

(案)

第 34 条 1 理事の任命及び罷免は幹事会が行う。

第 34 条 2 理事のうち互選により 1 名を理事長とし、理事長は理事会を統括する。

(理事会)

第 35 条 1 理事会は理事および幹事長で組織され、この規約に基づき本連盟の重要な業務の執行を決定する。

第 35 条 2 理事会は理事長が必要と認めたときにこれを招集して開催する。

(幹事長)

第 36 条 幹事長は総会、幹事会等で決定された意思に基づき、本連盟の運営を執行かつ統括する。

(副幹事長)

第 37 条 副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長不在のときこれを代行する。

(会計)

第 38 条 会計は本連盟の会計事務を統轄する。

(会計監査)

第 39 条 会計監査は本連盟の会計事務を監査する。

(地区代表幹事)

第 40 条 1 地区代表幹事は地区学連幹事を代表し、業務を処理する。

第 40 条 2 地区代表幹事は地区学連が推薦する。

(幹事)

第 41 条 会長・副会長・参与・理事・会計監査以外の役員を感じと称する。

(幹事会)

第 42 条 幹事会は幹事によって組織され、この規約に基づき本連盟の業務の執行を決定し、その運営の責に任ずるものとする。

(役員の選出)

(案)

- 第 43 条 1 会長、副会長、参与、理事は総会の承認により決定する。
- 第 43 条 2 幹事長、会計、会計監査、事業部長、広報部長、普及部長、事務局長は、本連盟競技者の中から総会の承認により決定する。
- 第 43 条 3 副幹事長は、幹事会または事務機構に所属する本連盟競技者の中から、幹事長の指名に基づいた総会の承認により決定する。
- 第 43 条 4 渉外部長は、北海道東北学連または関東学連の渉外部長の中から、総会の承認により決定する。
- 第 43 条 5 地区代表幹事は、各地区学連に属する本連盟競技者の中から当該地区学連が推薦し、総会の承認により決定する。

(役員の任期)

- 第 44 条 1 幹事および会計監査の任期は 4 月 1 日から 3 月 31 日までの 1 年とする。ただし留任は妨げない。
- 第 44 条 2 理事の任期は 4 月 1 日から 3 月 31 日までの 2 年とする。ただし留任は妨げない。
- 第 44 条 3 役員の中途退任に伴う補欠として選出された役員の任期は、前任者の任期の残余期間とする。

## 第 9 章 事務機構

(事務機構)

- 第 45 条 1 本連盟は第 3 条の事業を行うため、次の各号の事務機構を置く。
- (1) 事業部 インカレとその他付随する事業を行う。
  - (2) 広報部 連盟報その他刊行物の発行を行う。
  - (3) 普及部 オリエンテーリングの普及活動を行う。
  - (4) 渉外部 本連盟所有地図のテレインにおいて渉外を行う。
  - (5) 事務局 加盟、競技者登録その他一切の事務を行う。
- 第 45 条 2 総会は新たに事務機構を置き、学連の事務を補助させることができる。

(事務機構の構成)

- 第 46 条 1 各部局は本連盟競技者で構成され、第 43 条第 2 項の定めによって選出される部長もしくは局長により統轄される。
- 第 46 条 2 各部局は会計 1 名を互選する。

(案)

## 第10章 委員会

(委員会)

第47条 1 本連盟は、その運営を円滑に遂行するため、委員会を置く。

第47条 2 委員会は、常設委員会と臨時委員会に大別される。

(常設委員会)

第48条 本連盟の常設委員会として、次の各号の委員会を置く。

- (1) 技術委員会
- (2) アンチ・ドーピング委員会
- (3) スキーO委員会
- (4) 日本学生オリエンテーリング選手権大会サステナビリティ・プランニング・ユニット（インカレSPU）

(臨時委員会)

第49条 幹事会および理事会は、臨時に委員会を置くことができる。

## 第11章 経費

(経費)

第50条 本連盟の経費は、次の各号に定めるもので支弁する。

- (1) 競技者登録料
- (2) 関係機関および団体から受ける補助金
- (3) 事業収入
- (4) 賛助金、寄付金およびその他の収入

(競技者登録料の金額)

第51条 競技者登録料の金額は、総会の承認を経て決定する。

## 第12章 改正

(改正)

第52条 本規約の改正は、総会において加盟校総数の過半数の賛成を必要とする。

(案)

## 第 13 章 最高規範性

(本規約優先の原則)

第 53 条 本規約は本連盟の基本理念と本連盟運営の基本原則を定めたものであり、本規約に反する一切の規定は効力をもたず、また規定を定めるにあたっては本規約の趣旨を尊重しなければならない。

## 第 14 章 補則

(施行細則)

第 54 条 本規約の施行について必要な事項に関する細則は別に定める。

昭和 59 年 11 月 11 日制定

昭和 59 年 12 月 11 日施行

昭和 62 年 11 月 23 日改正

平成 2 年 3 月 19 日改正

平成 5 年 3 月 15 日全文改正

平成 10 年 3 月 9 日改正

平成 16 年 11 月 6 日改正

平成 17 年 3 月 14 日改正

平成 24 年 3 月 12 日改正

平成 28 年 11 月 19 日改正

平成 31 年 3 月 18 日改正

令和 2 年 5 月 9 日全文改正

令和 3 年 M 月 D 日改正

(案)

## インカレ SPU に関する細則

(目的)

第1条 日本学生オリエンテーリング選手権大会（以下「インカレ」）を将来にわたって持続可能な形で開催していくため、日本学生オリエンテーリング連盟（以下「日本学連」）理事会は、トレインコントロール及び実行委員会の組織について中長期的な計画を策定する。

(インカレ SPU の設置)

第2条 インカレの中長期的な開催計画を主導的に立案し、理事会に提案する組織として、日本学生オリエンテーリング選手権大会サステナビリティ・プランニング・ユニット（以下「インカレ SPU」）を、日本学連の常設委員会として設置する。

(インカレ SPU の人事)

第3条1 インカレ SPU は、主にインカレの継続開催を願う有志によって構成され、日本学連副会長及びインカレ担当理事がアドバイザーを務める。また、年度毎にアドバイザーを除くメンバーから座長（1名）を合議によって選出する。

第3条2 インカレ SPU は、その人事について幹事会に報告しなければならない。

第3条3 インカレ SPU の、アドバイザーを除くメンバーの定数及び任期は、次の各号の通りとする。ただし任期終了後の再任は妨げない。

(1) 定数：最小4名、最大8名

(2) 任期：最短2年、最長4年

第3条4 やむを得ない理由により、前項に定める任期の途中でインカレ SPU のメンバーが離脱した場合、インカレ SPU は速やかに同数のメンバーを再選任し、幹事会に報告しなければならない。

(秘密保持)

第4条 インカレ SPU のメンバーは、業務上知り得た秘密を外部に漏洩してはならない。

(インカレ SPU の業務要件)

第5条1 インカレ SPU は、概ね4か年先までのインカレ開催計画を立案し、各年度末を目安としてこれを理事会に提案しなければならない。

(案)

第5条2 前項に定めるインカレ開催計画は、当該インカレの1年前の時点で次の各号が概ね達成されることを目途に遂行されなければならない。また、インカレ SPU はこの開催計画に基づき、当該インカレの運営組織が実働状態に達するまで指導監督しなければならない。

(1) 会場とトレインについて

- i. 少なくともフィニッシュを設置できるような用地を会場として仮予約できていること
- ii. テレイン特性がインカレに相応しいこと

(2) 実行委員会の組織について

- i. 実行委員会の発起人として少なくとも1名を確保できていること
- ii. インカレ SPU の補佐の下、発起人が主要役員の選任に着手していること

(3) 大会関係者との合意形成について

- i. 開催地のオリエンテーリング組織（都道府県協会、地域クラブ等）から開催の合意が得られていること
- ii. テレインとなる土地の所有者または管理者から開催の許可が得られる見込みがあること
- iii. 作成した地図の知的財産権の処分方法について、関係者間の合意が形成できていること

(トレインの使用制限)

第6条1 中長期的にインカレに用いるトレインを確保し、またインカレの競技上の公正性を保つため、インカレ SPU は既成地図の存在するトレインのクローズ（原則として立入禁止）を理事会に提言できる。なお、クローズの措置は当該インカレの参加予定者を対象とする。

第6条2 クローズトレインの指定及び指定解除は、インカレ SPU の提言を受けて理事会がこれを決定する。

第6条3 クローズトレインの指定期間は、当該インカレの開催予定時期から遡って最短2年、最長3年とする。

(外部団体との調整)

第7条 インカレ SPU はインカレ開催計画を立案するにあたり、その計画が外部団体の主催による公益性の高い競技会と相互に競合していないことを確認しなければ

(案)

ならない。また、競合を認めた場合にはオリエンテーリング界の全体利益を念頭に、当該団体と誠実に交渉、調整しなければならない。

(改正)

第 8 条 本規則の改正は、幹事会の議決による。

令和 3 年 M 月 D 日制定

1. (目的) 日本学生オリエンテーリング選手権大会(以下インカレ)の公正を保ち、かつオリエンテーリング競技者に良質の地図とテレインを利用する機会を確保するため、日本学生オリエンテーリング連盟(以下日本学連)理事会は、テレインコントロールを行う。

2. (諮問機関) テレインコントロールのために、理事会の諮問機関としてテレインコントロールワーキンググループ(TCWG)を設置する。TCWGのメンバーは理事及び技術委員他から選ばれ、その人選に関して、幹事会に報告する。TCWGのメンバーは議論された内容の分、将来に渡ってインカレに特定の加盟校の一員(チームオフィシャル)として参加することができない。TCWGの座長は担当理事がこれを務める。

3. (指定の段階) 将来開催されるインカレの競技の公正を保つために、当該インカレでの競技(予定)者に対して、使用を制限するテレイン(0 map が作成されている地域)を指定する。使用制限に以下の2つの段階を設ける。  
リザーブ 競技性の高い特定の行事に限り既成地図の使用を認める。  
クローズ 10 項で述べる例外をのぞき競技予定者の立ち入りを禁ずる。

4. (指定) リザーブテレイン、クローズテレインの指定はテレインコントロールワーキンググループの諮問を受け、理事会がこれを決定する。

5. (解除) リザーブテレイン、クローズテレインの指定解除はテレインコントロールワーキンググループの諮問を受け、理事会がこれを決定する。

6. (外部団体との交渉) リザーブ・クローズテレインの指定に当たって、日本学連以外の団体や機関が既成地図の販売や管理

を行っているテレインについては、理事会が当該団体や機関との交渉を行う。

7. (指定期間) インカレ競技開催予定地は、指定地域を当該行事の3年前までに発表し、次の通りリザーブ・クローズとして使用を制限する。

	秋季	春季
	ロング	ミドル・リレー
リザーブ開始	2 年前 1 月	3 年前 4 月
クローズ開始	1 年前 1 月	2 年前 4 月

8. (リザーブテレインの使用) 日本学連及び地区学連の主催する公共性と競技性の高い行事での使用が認められる。普及、講習、娯楽を目的とした行事での使用は認められない。日本学連、地区学連の主催する以下のような行事での使用が想定される。

・地区学生選手権大会、インカレ代表選手選考会

・世界学生選手権代表選手選考会、世界学生選手権代表選手強化合宿

このほか、地区学連によりクローズされていない場合、外部団体(学連加盟団体をのぞく)からの申請により競技性の高い行事での使用のために地図を販売することがある。このような行事への学連加盟員の参加は制限しない。

9. (リザーブテレインの使用申請手続) 地区学連が日本学連リザーブテレインを利用して前項の行事を行う場合、地区学連によるクローズ指定と同時に(必ず当該行事の1カ月以上前に)、日本学連事務局に利用申請書を提出しなければならない。利用申請があった行事に対してはテレインコントロールワーキンググループと担当理事が確認の上、承認書を発行する。日本学連主催行事(世界学生選手権関連)は、技術委員会の担当者の申請により、テレインコントロールワーキンググループと担当理事が確認する。外部

団体のリザーブテレイン利用に関しては担当理事が窓口となる。

いずれの場合も、行事開催にあたっては所定の書類を日本学連及び該当都道府県協会に提出すること。

10. (クローズテレインの一時利用) クローズテレインは、その指定期間中であっても、技術委員会の諮問を受け、双方の大会コントローラーと理事会が承認した場合、異なる競技種目のインカレを開催することができる。この場合、第2のインカレの競技予定者はクローズ指定後は第1のインカレの競技以外で当該テレインに立ち入ることはできない。また、当該テレインは第1のインカレの2年前から第2のインカレの終了まで継続してクローズ指定とすることができる。

11. (地区学連によるリザーブ・クローズ) 地区学連は、インカレ代表選手選考会等の競技の公正を保つため、独自にリザーブ・クローズテレインを指定する事ができる。外部団体の作成した地図をクローズする場合は、当該団体と慎重に交渉を行い、十分な了解を得てから指定しなければならない。

補足事項：

(TCWGメンバー) 2007.6/4 現在

山川克則(副会長)

木村佳司(インカレロング担当理事)

土方 隆(インカレミドル・リレー担当理事)

中村弘太郎(元技術委員)

山口尚宏(座長・TCG 担当理事・東海地区担当)

土屋周史(関西地区担当)

白土英治(日光・矢板地区担当)

吉村充功

後藤崇 2007/6/3 幹事会にて人選報告済

(過去の経緯を示す資料)

<第36回日本学生オリエンテERING連盟

総会資料>

2001.3.11

今後のインカレ開催予定について

テレインコントロールワーキンググループ

(当時座長 大井和之(当時理事))

インカレはずっと最高の地図と競技の場を提供する大会として、学生OBの運営によって開催されてきました。しかし、参加者の減少は止まらず、逆に大会ごとに実行委員会を組織して運営する方式での運営者への負担は増大する一方です。特に地図作製に関しては、競技者の地図の精度への要求が高まる一方で、それに耐える地図を描くことが少数の熟練者に依存する傾向にあります。

このような現状で、インカレの開催を継続していくために、以下のような改革を提案します。

2004年度から地図作製の負担の軽減を主目的に、ロング競技(現在のクラシック)を秋季に、ミドル競技(優勝設定時間約30分、現在のショート)とリレー競技を春季に開催する。ミドル&リレーイベントは、1:1000で、A3の地図1枚で開催可能であり、ロングイベントは国際イベントを含む他のイベントとのジョイント開催が可能となる。

インカレ実行委員会については、大会ごとに実行委員会を日本学連の臨時委員会として組織する現在の方式にこだわらず、常設委員会の設置などインカレの継続開催に適した組織作りを、2002年度中をめどに検討していく。

愛知県のテレインについては世界選手権の開催準備のためクローズされているテレインのうちモデルマップとして公開される地図を利用してインカレを開催する。

<加盟員への意見募集資料>

2005.1.23

今後のインカレ開催地に関する意見募集

(山口尚宏)

TCWG・理事会が1/9の幹事会で示したインカレ開催地原案について、加盟員からの意見を募集します。『インカレテレインコントロールに関する申合せ第4条』により、インカレ開催地はTCWG(テレインワーキンググループ)の諮問を受け、理事会が決定することになっています。今回の意

見募集はインカレ開催地原案に対し、加盟員からの意見を募集し、よりよいものとするためのものです。意見は総会 1 ヶ月前の 2/14 まで募集し、その後 TCWG・理事会で検討の上、インカレ開催地原案を再度 3/14 の総会で提示します。

インカレ開催地は日本学連の活動に極めて重要な影響を及ぼすものです。集客性，採算性，地  
図精度などを踏まえた建設的な提案をお願いします。

< 幹事会説明資料 >

2005.6.5

リザーブ・クローズ時期の変更

( 山口尚宏 )

学連幹事からの意見を受けて、リザーブ・クローズ  
トレインの指定を次の理由により、次の通り  
変更します。

年度		秋季	春季
		ロング	ミドル・リレー
リザーブ 開始	旧	3 年前	3 年前
	新	2 年前 1 月	3 年前 4 月
クローズ 開始	旧	2 年前	2 年前
	新	1 年前 1 月	2 年前 4 月

本大会の日程に左右されていて不明確だった  
リザーブ・クローズ期間を明確にするため  
春季インカレの直前合宿やセレクションを最  
新トレインで行うことができるようにするた  
め

## インカレ枠振り計算方法の決定

### 1. インカレスプリント

#### 配分における規約

[http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20150406-2015\\_ICS\\_w.pdf](http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20150406-2015_ICS_w.pdf)

#### 配分の基準となるインカレの候補

##### ① ICS2019

利点 コロナ禍以前の大会なので、全体の参加者のバランスがいい

欠点 2年前のインカレ

##### ② ICS2020

利点 1年前のインカレ

欠点 地区セレの結果をもとにしていない選手権で、関東以外の出場者数がかなり少ない

#### 個人的意見

ICS2020 は色々例外的なことが多かったので、2019 を配分の基準とした方が良いと考えます

### 2. インカレロング

#### 配分における規約

<http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20160615-ICL.pdf>

#### 配分の基準となるインカレの候補

##### ① ICL2020

##### ② ICL2019

#### 個人的意見

ICL2020 はほとんどの大学が参加できたので、基本的には ICL2020 に基づいて配分すればいいと考えます

### 3. インカレミドル

#### 配分における規約

<http://www.orienteering.com/~uofj/media/rules/20160615-ICM.pdf>

#### 配分の基準となるインカレの候補

##### ③ ICM2018

利点 ミドルのインカレなので、ミドルを基準にするべき

欠点 3年前のインカレ

④ ICL2020

利点 1年前のインカレ

欠点 ミドルのインカレなので、ミドルを基準にするべき

個人的意見

ミドル競技の配分の基準にはミドル競技を使うべきだと思うので、ICM2018を配分の基準とする方が良いと考えます

# ICM2021の競技者配分計算方法について

第3回臨時幹事会参考資料  
作成：幹事長若月俊宏

## 1. 概要

第1回臨時幹事会以降、議論を先延ばししていたICM2021の競技者配分計算方法について、本幹事会で最終決定を行う。

## 2. 議論

第1回臨時幹事会での議論を振り返り、あらためて論点を整理すると考えられる方向性選択肢は以下の2つ。

①直近に開催されたインカレミドルの成績をもとに配分

②直近に開催されたインカレ（フォレスト）の成績をもとに配分

①直近に開催されたインカレミドルの成績をもとに配分

メリット： 同じミドル部門の成績を参照できる

デメリット： 本来前年度の成績を参照するところを、より2年遡って参照することになる

②直近に開催されたインカレ（フォレスト）の成績をもとに配分

メリット： より直近の成績を参照することができる。

デメリット： ミドル部門でありながら、ロング部門の記録を参照することになる。

追加論点： ICL2021が参加可能校数によっては成績として参照すべきでなくなる？  
↑どこに基準を置くのか（予め基準を設ける？技術委員会に判断委託?）

## 3. 過去の経緯

○第1回臨時幹事会での議論

ICL2021が参照成績となりうる可能性を考慮できておらず、決定を先延ばしした。

・参考資料（作成：技術委員会担当理事栗生）

[インカレ枠振り計算方法の決定.pdf](#)

○直近インカレ（フォレスト）の開催状況

ICL2018開催	ICM2018開催
ICL2019開催	ICM2019中止
ICL2020開催	ICM2020中止
ICL2021???	ICM2021???

○ICM2020はどうしようとしていたか。

ICM2018インカレを参照し、競技者配分を行った。

<http://orienteering.com/~uofj/gijutsu/media/document/20201205-2020middle.pdf>

当時の日本学連からの発表

[議題2. 2020ICMの枠計算について.pdf](#)

・コロナ全快を見込んでICL2020を参照しようとしていた。

・見込みよりも感染状況に改善が見られず、ICL2020開催前に軌道修正した。

## 4. 今後の手続き

本幹事会で①or②から方針を決定&必要に応じて追加の議論を行う

→決めた方針について後日改めてGoogleFormなどを用いて幹事承認をとる

→承認事項を加盟校および関係各所に通達

議事録...

②の方針で決定

ICL2020、新潟大学以外の出場

基準いる

- ・ 卒獲得圏内
- ・ 地区学連の合意が得られれば...？得られなければICL2020